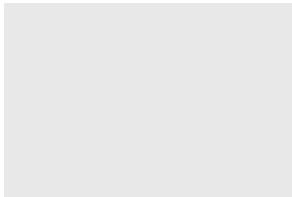


書肆心水提供サンプル／個人使用の範囲でお願い致します



文明の交差点の地政学
トルコ革新外交のグランドプラン
SAMPLE
アフメト・ダウトオウル
中田考監訳
中田考／アフメト・ファーティヒ本田恭介／久間達也訳
Shishi-Shinsui.com

書肆心水

SAMPLE

Shoshi-Shinsui.com

STRATEJİK DERİNLİK
Türkiye'nin Uluslararası Konumu

by Ahmet Davutoğlu

Copyright © Ahmet Davutoğlu, 2001, © Küre Yayımları, 2001, 2011

Japanese translation published by arrangement with Küre Yayımları
through The English Agency (Japan) Ltd.

日本語版序文

I 歴史的／知的文脈分析

書物とは、歴史的文脈と著者の知的探求との間の相互作用による啓示の産物です。ある意味では、この探求は、時代精神と著者の思考様式との間にある弁証法と調和の紙への反映です。一つの文章の中で弁証法と調和の語を補完的に用いるのは、奇妙に、いや矛盾して見えるかもしれません。しかしそれでも、その二つの間に新たな調和を生み出そうとの目標と決意をもつて進められるものです。

私が一九九〇年代末に本書を執筆したのは、冷戦終結後、流れが加速した当時の歴史の内的弁証法を正確に把握し、地理的にその流れの中心に位置する国であるトルコがその新しい状況に適応するために貢献したいと思ったからでした。一九九〇年代後半に本書を執筆した時点で、歴史は一九九〇年代前半の終焉論が予想したような形では終わりませんでした。一九九一年にそうしたアプローチを批判するために発表した論文で主張したように、歴史は新たな均衡を求めて流れを速めました。「歴史はまだ終わっていませんでした。それはまだ形成過程にあって、存在論的な均衡に向かっていたのです。¹」

一九八九年末のベルリンの壁崩壊に始まる地政学的激震は、一九九一年のソビエト連邦解体後、ユーラシア・ベルトに沿った断層線を深く搖るがしましたが、それは冷戦時代の前線国家であったトルコを、バルカン半島から中央アジア、コーカサス、中東へと延びる地政学的断層線の中心に位置づける役割を果たしました。サダメ・フセインのクウェート侵攻、ボスニアでの民族浄化、コソボとマケドニアでの紛争の拡大、アルメニアによるアゼルバイジャン領土の五分の一の占領、南北コーカサスでエスカレートする民族間の緊張が湾岸戦争の引き金となつた一方で、トルコは、バルカン半島、中央アジア、

ヨーカサス、中東に広がる地政学的断層線の中心に位置を占めるようになつていきました。トルコの周辺で冷戦時代の（東西）陣営の区分が揺らぎ、新しい国民国家が誕生し、地域情勢が流動化したため、トルコがより積極的な外交政策を展開するために非常に有利な見通しが生じました。

歴史の流れの加速化と文化的・地理的な活性化は重大な責任と義務を伴います。周辺諸国での紛争によってトルコに難民が流入することになりましたが、トルコはそれに対して無関心でいることはできませんでした。なぜならトルコ在住のボスニア人、アルバニア人、コソボ人、チエチエン人、アブハジア人はボスニア、アルバニア、コソボ、チエチエン、アブハジア本国に住む者の数より多く、トルコにはジョージアとほぼ同じ数のジョージア人が住んでおり、トルコのクルド人はイラクのクルド人より多いからです。モルドバでのトランスクエストル危機に見舞われたガガウズ人でさえ、避難が必要なときにはトルコを目指したのです。

しかし、冷戦時代の状況に合わせて戦略を立てていたトルコには、このような急速な変化に対応するための戦略思考、経験、それを実現する手段が欠けていました。一九九四年、一九九九年、二〇〇一年と続いた経済危機、テロの増加、軍部の政治への介入（一九九七年）、短命な連立政権による混乱のために新たな戦略的視点を生み出すことができませんでした。そうした一連の事件の中でも最大であった一九九九年の大地震は地政学上の激震でもありました。トルコの文化・経済の中心であるマルマラ地方を襲った物理的な地震とトルコ周辺地域を揺るがす地政学的激震への国家の対応には、その能力不足と歪さにおいて並行関係が存在しました。

当時、私が度々論じたように、歴史の流れが速く、難易度の高い地理的条件の下で強大な軍事体制を整備しなければならないトルコの戦略理論と自信の欠如は、「上腕二頭筋は強いが、胃が弱く、脳が機能不全で、不整脈がある」病人に譬えられます。長年にわたって、外交政策を「外交実務のレベル」にまで落としてきた自信のない受け身の態度が、政府官僚の間にも定着していました。危機への場当たり的な対応から全体像を見据えた未来のビジョンの管理へと転換するためには新たな戦略的分析・解釈の枠組が必要である、との認識が生れたのです。

私が一九九八年から二〇〇一年にかけてこの二冊に応えるために書いた本書 *Stratejik Derinlik* (Strategic Depth, 戰略的深度) は二〇〇一年六月に初版が出版されました。それはちょうどトルコが大規模な経済危機に見舞われ、その政治的安定性が三党暫定連立政権によって弱体化していた時期であり、何よりも重要なことに、トルコの強さに対する社会の信念が搖

らいでいた時期でした。そして本書が公刊されたまさにその時期にこうした感情が蔓延していたために、『戦略的深み』はトルコの潜在的な力を信じていた社会の一部の人々に深甚な影響を与える一方で、その力に懷疑的な見方をしていたサークルからの厳しい批判に晒されました。歴史が急速に動いている時代に最も必要とされるのは、その流れのダイナミズムを把握することができるオルタナティヴなアプローチを生み出しうる知的環境です。

本書の刊行から約一年半後のトルコの政権交代によって首相の首席補佐官に就任した私は、理論的整合性と道義的責任という我が人生で最大のチャレンジに直面し、厳しい試練を体験しました。こうした機会は、歴史の流れの中で数少ない学者や理論家に与えられた恵みであると同時に、歴史の流れが勢いよく進んでいる時代に、歴史の流れの地理的・歴史的中心に位置する社会の一員として担うべき重責でもあります。

私が戦略的深みと名付けた新しいアプローチを書籍にしたのは、この知的責任のためです。読者の心に訴えかけ、政策立案者や政治家たちに学術的に貢献するために書かれた本書は、著者個人にとっては実地で検証するためのリトマス試験紙の役割を果たしました。二〇〇一年に本書を出版した時点では、私はそれを学術作品と見なしていました。しかし人々の間に急速に広まった本書の深甚な心理的影響は、私の人生に影響を与え、運命を搖さぶり始めました。そしてその時、著者と作品の関係は通常の能動／受動、主体／客体の関係ではなく共有された探求と歴史的な流れの関係であることに気づきました。著者の立場から見ると、純粹に観念的な理論が突然現実の中でテストされ、しかもそのテストが著者自身が個人的に関与した政策の中で行われたため、重大な知的責任と道徳的責任が生じたのです。知的責任については、発表した仮説の理論的整合性をいつでも検証でき、道義的責任については、取るべき立場には理論に従う面と現実に従う二つの面があるからです。外交政策決定のプロセスが単一の要因や理論的枠組に還元することができない複雑で多次元的なものであることは間違いません。それは真空の中ではなく、極めてダイナミックな国際環境、国内要因と国際要因が相互に作用する空間の中で行われるのです。二〇〇二年末のトルコの政権交代によってその理念と実践が刷新された外交政策は、九・一によってさらに複雑化した国際環境の中で政権を握ったAK党（公正発展党）の指導部とその幹部たち、政府機関、特に大統領府、首相府、外務省、国家安全保障会議との相互作用の場の中でダイナミックに形成されていったのです。政治意志と安定性がなければ、いかなる外交政策も実際に歴史の舞台に上ることはできませんでした。

理論と実践の関係の中で私は、アカデミシャンから外交政策立案者、政治実務家、政治家への移行を含む五つのフェーズ

の実践経験を経てきました。第一段階は、アカデミシャンとして本書を執筆・出版した時期です。私はもともと学者としての人生設計をしていましたが、実務家にも使える理論的な研究として本書を書きました。一九九七年二月二八日の軍部の政治介入という国民の自由を制限し国将来に影を落とした行為をきっかけに書き始め、二〇〇一年二月に経済危機で国が絶望的な状況に陥った中で書き終え、その二、三ヶ月後に読者の手元に届いたのです。危機的な状況の下で、国の将来像を野心的に描いた作品であつたため、当時のトルコの時代精神と国民感情を表していないようにも見えました。

この本の執筆中は私には外交実務を直接経験する機会はありませんでした。私の目標はただ一つで、トルコの歴史と地理、そして悪夢のような状況下でトルコに蔓延した時代精神についての合理的でありながら野心的な解釈枠組を示すことでした。私は歴史的、地理的記述に基づいて議論を進めました。それは地政学的、地理経済的、文化地理的な記述であり、あるときはバルカン半島、あるときはメソポタミア、あるときは中東、あるときはアジア、ヨーロッパ、アフリカについての記述でした。私は一つ一つの記述を丹念に吟味し、それらのプロセスの分析に基づいて結論を導き出すように努めました。これらの描写や記述から、説明的分析と解釈的理論的枠組を用いて新たな外交政策の地平と実行方法を提示することに努めました。

第二段階は、AK党が政権を握って首相補佐官・大使に任命されたこと（二〇〇二年一二月）から始まり、二〇〇九年五月一日に外務大臣に任命されるまでの約六年半の間でした。この間、私は最高顧問として外交政策のビジョンを決定する役割を担うとともに、大使・特別代表として外交政策の実務に直接携わりました。私はその外交政策ビジョンの文脈の中で、一部は地域政策、一部は制度構造や分野別の適用分野を対象とした新たな戦略的行動計画の作成プロセスに関与しました。またこの時期には、バルカン半島、湾岸、コーカサス、中央アジア、アフリカ、ラテンアメリカにおけるイニシアチブや開放政策に関連した戦略的行動計画の準備作業が行われましたが、これらのイニシアチブは後になつて実現されることになりました。

第三段階では、二〇〇九年五月一日から、外務大臣、政治家として、また政治意志の実現のための政策立案者として、外交プロセスに参画しました。首席補佐官としての諮問的な役割、大使や特別代表として「台所にいる」立場から直接的な責任を負う立場に移ったとき、「戦略的深み」への関心がさらに高まつたのは当然でした。この間、トルコは、地域や世界の政策や政治において、より積極的で影響力のある役割を果たす能力を伸ばすことを主目

的として、外国公館の増設、Yunus Emre Institute^{ユヌス・エムレ・インスティテュート}、海外トルコ人および関連コミュニティー総局に併設された文化センターの設立、テュルク民族協力調整庁（T-I-K-A）の海外能力の拡大などによって、外交政策の組織的基盤の不足の克服に努めました。同時に近隣諸国との間で設立されたハイレベル戦略協力会議のメカニズム形成、ビザ要件の免除、自由貿易協定の締結、三国間メカニズム形成、アフリカやラテンアメリカのイニシアチブ／開放、そしてトルコの国際／地域組織への加盟を通じた外交政策への影響力強化のための制度などを優先的に整備しました。それによって、二〇〇八年の経済危機によって引き起こされた国際市場の縮小の負の影響をはねのけることができました。また、「アラブの春」以降に中東を揺るがせた大規模な構造的激震への対処のような危機管理にも尽力しました。

第四段階では、首相として外交政策のみならず、我が国が直面している課題全般を統括し、周辺六カ国の内戦による不安定化、難民の流入、テロの脅威との戦いなど、厳しい課題に直面しながらも、このような積極的な外交政策ビジョンを維持、発展させきました。例えば、二〇一六年三月一八日にEUとの間で締結した難民に関する協定は、トルコとEUの関係を再編すると同時に、全人類の関心事である人道問題の解決をも目的としたものでした。

首相を退任してからの最後の第五段階では、研究者から最高顧問、外相、そして最終的には首相になるまでの過程の中で得、発展させた経験を改めて考え直す機会を得ました。その中で、私たちは皆、大きな実験室の中で、時には自分の試験管の中での中で、政策を考案したり、実施した政策を批判したりしながら、思索を重ねたのでした。

これらの段階のそれぞれに、途方もなく挑戦的な問いかけと、わくわくする知的探求がありました。この最終段階は、試験管から抜け出して、より冷静な評価を行う機会と環境を提供してくれています。特に人類の歴史と同じくらい古い、理論と実践、理想と現実の区別に基づく根深い弁証法の観点から物事を評価するという点では、これらの経験は知性の活性化に役立っています。

II 概念枠組と理論的命題

本書の概念的・理論的枠組は、（1）国際関係を分析する方法論——概念化・階層化・プロセス分析、（2）ポスト冷戦期——グローバル、および地域レベルでの変容の分析「歴史の終わり」仮説で想定されていた新世界秩序から勢力均衡システム

ムへの移行、（3）この歴史的変容プロセスにおける「中軸国」としてのトルコの位置、（4）将来の予測と政策提言、の四つの軸の上に築かれています。

静態的な図式の分析ではなく、動態的なプロセス分析によって、史上最も急激な変化が起こったこの時代の基本的な特徴と新しい要素を特定しようと試みました。ポスト冷戦期の、特に「歴史の終わり」に関する多くの著作のアキレス腱は、勝利者史観で静態的なスナップショットを切り取り、そのスナップショットの中で歴史の流れを理解しようとする傾向でした。「新世界秩序」や「一極世界」といった静態的なスナップショットから生み出された概念は、歴史の流れの中で加速するダイナミックな動きを理解するには不十分でした。

この問題点を克服し、代謝のプロセスの実態を明らかにするために、私は時間の段階化と空間の成層化を重視しました。時間平面におけるグラデーションについては、グローバル、および地域レベルの分析における歴史的参照点に着目することで、歴史の断絶ではなくその連続性に基づいて現在進行中の変化と将来の予測を確定させようと試みました。またその空間の平面においてもその成層化によって、戦略的レベルでの地理的連続性の要素に注意を喚起しようとしました。

地理的成層化に基づく地政学的な図式から説明枠組に転換し、戦略的深み、戦略的ベルト、地政学的最前線、中軸地帯、近隣内陸圏、近隣海洋圏、近隣大陸圏、中軸国、相互作用地帯、アフロユーラシアの深みなどの概念を設定し、既存の概念を再解釈しました。そしてその理解のための枠組の中で、主要な政治アクターの戦略的思考法を、読者の関心を喚起するような形でインサイダーの視点から検証するように努めました。最後に、本書で練り上げた再解釈枠組を用いてトルコの現在の国際的立場を定義し、私たちが自己をその中に位置づける地理／空間と、自分たちがその相続人であるところの歴史を再解釈するように試みました。これらの連続性の要素の核となる概念であり、本書のタイトルに選んだ「戦略的深み」は、時間が経つにつれて、トルコの新時代の外交政策を定義する概念となり、広く浸透していきました。

一方で、本書では、パワー（霸権、国力）の方程式として読者に抽象的な解釈の枠組を提示してみました。その際私はパワーの方程式の中で戦略思考、戦略意志、戦略計画を乗数効果を有するパラメータとして強調することで、ダイナミックな国際情勢の中で必要とされる外交政策立案プロセスの一不可欠性を明らかにしようとしました。特にトルコのようなケーブスでは、静態的な冷戦のヒエラルキーに基づく既成の限定的な外交から、ダイナミックに変化する状況への適応を想定した柔軟な外交への転換は、これらの要素が活性化され、動員されてやっと、長い時間をかけたうえで実現することができる

の
です。

本書における冷戦後の新たなグローバルな文脈と地域的文脈の見通しは、国際システムが一極的な新世界秩序ではなく、ダイナミックで多次元的な力の均衡システムへと移行しつつあるという前提から出発しています。本書の関連セクションでは、冷戦期の超大国、大国、地域大国、その他というパワーのヒエラルキーが崩壊し、米国が短期的には唯一の超大国としての地位を維持するが、パワーの均衡システムの中で大国間に新たなダイナミックな均衡が形成されるだろうという戦略的分析を示しました。湾岸戦争からボスニア紛争に至る一連の出来事の推移の中で、この系統的なパワーの均衡の最初の兆候が見出されました。そしてこの新しい方程式の中では、トルコのような多次元的な地政学的、文化地理的、経済地理的地域大国には新しい可動域が開かれ、その文脈の中でグローバル大国と地域大国の間の相互的、多次元的な関係が、新しいパワーの均衡の形成に影響を与えることになりました。私はこの分析を冷戦後の危機とパワーシフトに適用することで、世界と地域の将来の発展の脈動を把握しようと務めました。

冷戦後のトルコの戦略的立場と、グローバルシステムと地域サブシステムについて、この一般的な枠組の中で行われるべき外交政策の視点を提示しました。このアプローチでグローバルな視点と地域の視点のバランスのとれた新たな外交政策を柔軟に運用するには、外交政策プロセスが多次元的かつ多層的に行われることが必要です。「戦略的深み」のアプローチが想定する前提における最も重要な変化は、トルコが冷戦時代のような一極陣営における「周縁国」ではなく、歴史が加速度的に流れている戦略的・地政学的状勢の中での「中軸国」となり、その政策もそれに応じて立案されなければならない、ということです。

このような戦略的前提の変化は、中央から周辺に広がる秩序と安定の概念にともなうものです。近隣内陸圏（バルカン・ヨーロッパ・中東）、近隣海洋圏（黒海・東地中海・湾岸・カスピ海）、近隣大陸圏（ヨーロッパ・北アフリカ・南アジア）中央アジア・東アジア）にわたる戦略的分析・予測・提案は、歴史的・地理的な連続性の方法論的前提の当然の帰結でした。後に外交政策の実践で用いた「危機ではなくビジョンのマネジメント」、「秩序確立」、「ソフト・パワー」、「ビジョナリー外交」、「地政学的・地理経済的・文化地理的相互作用」、「隣国とのゼロ・プロプレム」、「リズミカル外交」、「アフリカ・中南米・太平洋開放の新政策」などの概念、原則、政治的命題は、実は「戦略的深み」のアプローチの反映、具現化だったのです。

「戦略的深み」の理論的枠組から実践への移行の鍵となるものは、首席顧問就任後のインタビューの中で、新しい外交政策の原則として（1）自由と安全のバランス、（2）隣国とのゼロ・プロブレムと積極的な地域政策、（3）「中軸国」意識を持った多次元・マルチトラック外交、（4）ソフトパワーを重視した新しい外交スタイル、（5）国境を越えた地域や国際機関への取り組みをベースにしたリズミカルな外交、とまとめています。⁽²⁾

隣国とのゼロ・プロブレムと積極的な地域政策を二つの異なる原則として分離し、グローバル大国との関係において補完性の原則を追加するなどの修正は別として、これらの原則は、新しい外交政策の理論的・実践的基礎を理解しようとする者にとっても、それを批判しようとする者にとっても、重要な参考点となりました。

実のところこれらの原則は静態的なものではなく、動態的なものであり、トルコの国際関係を刷新する包括的なプロセスを想定していました。自由と安全のバランスの原則は、民主主義を核とする内部刷新の原則であり、この内部刷新は外交関係の確立にも適用されるものです。実のところ一九九〇年代からのトルコの安全保障重視のイメージと民主化プロセスに基づく自由とのバランスをとることは、九・一以降、安全保障重視の政策が世界中に広まつたにもかかわらず、特に周辺地域にとつては、実践的なモデルの見本となりました。

隣国とのゼロ・プロブレム原則は、本質的には、近隣諸国との関係を改善するための心理的インフラの構築、そして周辺地域との関係を再構築するための新しい考え方と認識を生み出すこと、という二つの目的に取り組んできました。こうしてトルコの外交政策を冷戦時代のギリシャやソ連の例のような單一の隣国との緊張関係に基づいて立案することができなくなりたという事実が明らかになつたのです。この原則は、脅威に対する反動的な外交政策から、積極的で先見性のある外交政策への転換を実現するのに役立ちました。隣国とのゼロ・プロブレム原則を掲げた主な目的は、単に理想主義的な枠組を作ることではなく、内外でのトルコのイメージに革命をもたらすことでした。この意味で、この原則は大きく成功しました。効果的な地域政策を展開するという原則と、隣国ゼロ・プロブレムの原則を補完的に適用することで、トルコ周辺に安定した地域を形成することを目指したのです。キプロス問題やエーゲ海問題などのギリシャとの緊張関係を除けば、トルコは何十年もの間、冷戦時代のやり方で、地域政策を一極（アメリカ）の戦略的選好に合わせてきました。直接国境が脅かされるような事態の展開がない限り、トルコは一般的に「先送り」策をとつていました。こうした「先送り」策は、静態的な国際バランスが支配していた冷戦時代には有効でしたが、中東、バルカン半島、ヨーロッパ、中央アジアなど、トルコの利害

が直接に関わる地域では、もはや維持することはできませんでした。地域内・地域間の交流は、危機管理から地域秩序の確立と安全地帯の形成を目的とした政策へと移行する必要がありました。

多次元・マルチトラック外交原則は、ダイナミックな国際環境に適応するために必要な包括性と統合性を有していました。二極化した世界の単純で一次元的なバランスは、そのバランスが瞬時に変化し、形を変えていく新たな国際環境へと変容しました。トルコがこの新しい環境に適応するためには、健全な理論に基づいたアプローチと柔軟な適用が必要でした。この意味では、二つのグローバル大国（米ソ）のうちの一つの極を選択する論理から、補完関係の論理への漸進的な移行を達成する必要がありました。

「戦略的深み」は、グローバル大国との関係において、多次元的でバランスのとれたアプローチを想定しています。新政権が誕生した当時、ロシアとの関係は、ボスニア、コソボ、チエチエンでの紛争や歴史的なしがらみの下にありました。EUとの関係は、軍部の介入やキプロス問題に伴う反民主主義的な行動を理由に緊張していました。新興国である中国との関係は等閑にされていました。二〇〇四年のEU加盟交渉開始の決定、ブッシュのアンカラ訪問とトルコ・ロシア関係の新たな地平の開拓、米国とのイラクをめぐる危機の影響の封じ込めなどが、このような多面的なアプローチを実行する場の形成につながったのでした。

マルチトラック外交政策とは、安全保障・軍事・外交分野だけでなく、文化・経済分野も含めた新しい考え方でした。その中で、また、EU加盟を交渉しているイスラーム教国として、文明同盟プロジェクトを通じて、国際的な文化的対立の両端をなす東西の融和に努める一方で、G20のメンバーとして、経済的・政治的対立の両端である南北の緊張緩和のために、国連の後発開発途上国（LDC）の調整やLDCサミットの開催を重視しました。このようにしてトルコは、文化的バランスの西と東の端、経済的・政治的バランスの北と南の端の両方を同時に代表するようになつたのです。

ソフトパワーを重視した新しい外交スタイルと方法を採用するという原則によつて、冷戦期を通じてNATOの強大な軍事力を有する一翼であったトルコは、調停、文化関係、緊急援助、災害管理、人道外交、経済的相互依存などの分野で積極的かつ効果的なアプローチをとらなければならなくなりました。しかしこれらの分野でのトルコの能力の不足は深刻だったため、その克服のために包括的な手段が講じられました。

TİKAと赤新月社が大幅に増強され、Yunus Emre Institute、海外トルコ人および関連コミュニティー総局、災害緊急事務

態管理局（A F A D）などの新しい組織が設立されました。また、文明同盟や平和のための調停など、国連が認めたイニシアチブが優先的に行われました。

二〇〇三年のイラク戦争に先立つイラク隣人フォーラムの結成、ビュルゲンシュトックでのキプロス恒久的和平交渉と二〇〇四年の国民投票、二〇〇五年のイラク選挙へのスンナ派の参加を確保するプロセス、二〇〇八年のレバノン議長国危機の解決、二〇〇八年の間接的なシリア・イスラエル和平交渉などの取り組みなどを挙げることもできます。またトルコ、アフガニスタン、パキスタン（二〇〇八年）、トルコ、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビア（二〇〇九年）の三国同盟のメカニズムに重要な局面で介入し、関係者間の緊張関係の打開に大きな役割を果たしたことは、ソフトパワーの行使や周辺地域での活動の重要な礎となりました。

新たなイニシアチブと開放主義に基づくリズミカルな外交は、国際機構や組織などにおけるトルコの知名度を高めることで、トルコの地域的かつグローバルな影響力を強化することを目的としていました。それはアフリカ、ラテンアメリカ、東アジアでのイニシアチブ、国連安保理への加盟、ASEANからカリブ海共同体にいたるほぼすべてのグローバルな組織と地域的組織との関係の急成長などに表れています。このようにトルコは、複合的な問題だけでなく、多面的なアプローチで新たな地域への開放を原則としたグローバルおよび地域的な取り組みを通じて、国際世論の中での地位向上を目指しました。このような政策の拡大に応じて、トルコの在外公館の数は一六三から二三五へと増加し、トルコは世界で六番目に多くの海外代表部を有する国となりました。

政治の実務によつてもたらされた新たな知見と経験を、長年の歳月を経た後に、その間のすべての見聞を視野に収めて本書を振り返ることは、理論と実践、連續性と変化の相互作用を評価する機会を与えてくれます。

このような環境において、特に私たちが地域のレベル、グローバルなレベル、国家のレベルで経験している制度的激震の影響が深く感じられている現在の国際情勢の中で、今日の複雑化する国際問題や国家・地域・世界秩序の問題を乗り越えるための最も重要な前提条件は、幅広い知的開放と相互交流をもたらす能力です。

本書は日本の読者には、トルコの外交政策を理解するだけではなく、日本とトルコの類似点を探る上でも、特に興味を持つていただけだると思います。アジアの東と西の対極に位置する両国は、一九世紀末に近代化という課題に直面した歴史を共有しているからです。西洋の拡張主義に対する両国の反応は、防衛的な西洋化、つまり西洋をモデルにした制度的・政治的改

革による西洋への対抗でした。しかしそれは文明のアイデンティティー問題を引き起こすことになりました。

オスマン帝国が改革の甲斐もなくその統合を維持できなかつたため、トルコ共和国は当初から過去との歴史的連続性を断ち切ることを目指す新しい国として建国されることになりました。冷戦時代には、トルコと日本はそれぞれ、中東と東アジアにおける地域的脅威がもたらす安全保障上の課題に対応するため、西側の安全保障システムの確固たるメンバーとなりました。しかしポスト冷戦期になると、日本もトルコも歴史的変容とアイデンティティー、歴史認識といった概念と取り組むことで、新たな外交政策において自國に名誉ある地位を与えようと努めてきました。日本の場合は、大日本帝国の誕生にあたつての苦い経験が近代日本の形成につながりました。

それゆえ権力、歴史、地理のような概念を扱う本書の議論から、日本の読者諸賢が両国との間の様々な類似点を発見してくれれば幸いです。地理的に距離が離れているにもかかわらず、日本とトルコの外交政策の方針は非常に似ています。その意味でも、本書が歴史的に根付いた両国の相互友好関係の深化に貢献することを筆者は願っています。本書の日本語訳が、ギリシャ語、アラビア語、ブルガリア語、セルビア語、アルベニア語、マケドニア語、ペルシヤ語、ハンガリー語など、これまでの様々な言語への翻訳と同様な反響をもたらすことを期待します。

最後に本書の優れた翻訳をしてくださつたハサン・中田考博士、メフメト・ファーティヒ・本田恭介氏、久間達也氏、出版の英断を下された書肆心水、出版に当たつてトルコ側と日本側の調整をお願いした Sevinç Alkan Özcan 氏とカイイム・山本直輝博士、そして本書の理論的・実践的経験を共にしてきた最愛の妻サレと家族に感謝の意を表します。

SAMPLE
Shoshi-senshu.com

文明の交差点の地政学

目次

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

第一部 概念的、歴史的枠組

第1章

パワーハラメーターと戦略 58

I パワー・バランスとその諸要素 60

1 定数——地理、歴史、人口、文化 60

2 潜在的定数——経済、技術、軍事力 65

3 戰略思考、文化的アイデノティティー 68

4 戰略計画と政治意志 70

II 人的要素と戦略的制度における乗数効果 72

III 応用分野例——防衛産業 75

1 パワーハラメーターと防衛産業 75

2 トルコのパワー・ハラメターターと防衛体制 78

第2章

戦略理論の不備とその帰結 81

I トルコのパワーの要素の再検討 81

日本語版序文	3
本書の要約（監訳者）	23

序文	46
前書き	43

第2章

近隣内陸圏

バルカン諸国・中東・ヨーロッパ

136

第1章 地政学理論——ポスト冷戦期とトルコ

I 空間把握、地理認識、地図	120
II 地政学理論とグローバル戦略	124
III ポスト冷戦期と地政学的空白地帯	128
IV トルコの地政学的構造の再検討	133

第二部 理論的枠組——漸進戦略と領域政治

II 戰略理論の欠如	83
I 組織的、構造的背景	83
II 歴史的背景	86
III 心理的背景——自我の分裂と歴史意識	91
III 歴史遺産とトルコの国際関係	96
I 歴史におけるトルコの国際的地位	96
II ポスト冷戦期と国際情勢の外的バラメーター	103
III 政治文化と国際的地位の内的バラメーター	106
1 歴史遺産と政治文化の下部構造	107
2 歴史的連続性と政治潮流	110
3 ポスト冷戦期と政治潮流	115

SAMPLE
Shoshi-shinsu.com

第3章

- I 歴史的／地政学的問題とバルカン諸国 136
 II アジアへの扉とコーカサス 140
 III 不可欠の後背地——中東 144
 IV 近隣内陸圏の境界の柔軟性と近隣諸国との関係 153

近隣海洋圏 黒海——東地中海——ペルシャ湾——カスピ海 159

- I 歴史的背景 159
 II 冷戦期とトルコの海洋政策 162
 III ポスト冷戦期の新海洋政策の諸要素 164
 1 黒海と周辺の水路 165
 2 ヨーラシアの戦略的結節点——海峡 167
 3 東地中海圏——エーゲとキプロス 173
 4 ペルシャ湾とインド洋 181
 5 カスピ海 182

第4章

- I 近隣大陸圏 ヨーロッパ——北アフリカ——南アジア——中央アジア——東アジア 184
 II ポスト冷戦期の大陸規模の政策とその定義 185
 III グローバル大国と地域大国の大陸政策 188
 1 トルコの近隣大陸圏の主要素 192
 2 ヨーロッパ概念の変遷とトルコ 196
 3 アジアの深み 198
 4 アフリカへの展開 201
 諸大陸の交流地域——大西洋、ステップ地帯、北アフリカ、西アジア 203

SAMPLE Shoshinshuu.com

第三部 應用領域——戦略目標と地域政策

第1章 トルコの戦略的関係と外交目標

第2章 戰略的变化とバルカン諸国

I ポスト冷戦期の制度的矛盾とバルカン諸国 264

263

I	NATOの新戦略ミッションの枠組における大西洋枢軸とトルコ	212
1	アメリカの戦略とNATO	215
2	ポスト冷戦期とNATOの新しいミッションの模索	218
3	コソボ作戦とNATOのグローバルなミッションの定義	219
4	NATOの新しい戦略ミッションとトルコ	220
III	ヨーロッパ安全保障協力機構(OSCE)	227
II	OIC——アフロユーラシアの地政学並びに文化地理的影響ライン	228
1	二〇世紀のイスラーム世界——概念的、政治的变化	232
2	ポスト冷戦期と二一世紀のイスラーム世界	234
VII	トルコとイスラーム世界	239
VI	トルコの将来と再編成	245
V	ECHO——アジアの深み	247
IV	BSEC(黒海経済協力機構)——ステップと黒海	252
D	8とアジア・アフリカ関係	256
G	グローバルな政治経済とG20	257

第3章	
IV	
III	
II	
I	
V	
IV	
III	
II	
I	
中東——政治経済的、戦略的パワーバランスの鍵	289
中東の国際的な地位に影響する要因	288
地理的、地政学的原因	290
歴史的、文化地理的因素	290
経済地理的因素	292
グローバル大国と中東	300
1 アメリカの戦略的基本的パラメーターと中東	302
2 ヨーロッパ諸勢力と中東	307
3 アジア諸勢力と中東	310
域内パワーバランスと中東	312
1 地域の geopolitics と戦略的三角形スカニズム	312
2 アラブ世界のパワーバランス——アラブ民族主義の危機と政治的正当性問題	326
イスラエルの新戦略と中東	326
4 域内パワーバランスと中東和平プロセス	330
中東政治の基本的ダイナミズムとトルコ	344
NATO の軍事介入とコソボの将来	272
トルコのバルカン半島政策の原則	280
歴史遺産とバルカン諸国	282
域内諸国関係	284
域内パワーバランス	284
地域を取り巻く政治	286
バルカン政策におけるグローバルな戦略目標	286
ボスニア危機とデイテン合意	276
ボストン冷戦期と域内パワーバランス	270

第5章

- I E
外交／政治関係 424
- U——多次元的かつ多面的な関係の分析 422

第4章

- I ユーラシアのパワーバランスにおける中央アジア政策 388
- 中央アジアの国際的地位に影響を与える要因 388
- 1 地理的、地政学的因素 388
- 2 歴史的、文化地理的因素 388
- 3 人口的並びに文化地理的因素 388
- IV ポスト冷戦期と中央アジアの変化 388
- 1 ポスト冷戦期の国際諸勢力のパワーバランスと中央アジア 388
- 2 グローバル大国と中央アジア 388
- 3 アジア内パワーバランス、地域大国と中央アジア 406
- 域内パワーバランス 409
- III IV
トルコ外交と中央アジア政策 411
- 1 トルコから戦略へ——トルコの中央アジア政策 411
- 2 スローガンから戦略へ——トルコの中央アジア政策 415
- 3 トルコの対中央アジア戦略の優先順位 415

- 2 1 國際經濟の視点からのトルコの北中東政策 344
- 2 中東の地政学的変化とトルコの北中東（東大西洋－メソポタミア）政策 351
- 3 トルコ－アラブ関係から見たトルコの中東政策 355
- 4 トルコ－イスラエル関係のグローバルな次元と地域的次元 360
- 5 歴史的深みからの地政学的交流、トルコ－イラン関係 366
- 6 グローバル及び地域的パワーバランスの視点から見たトルド問題 375

索注	解説 監訳者後書	結語	V	IV	III	II
引 5 1 0	トルコ外交戦略の深奥（内藤正典） 481	460	文明／文化変容の側面 445	二国間関係戦略分析の例——歴史的深みとポスト冷戦期のトルコ－ドイツ関係 440	経済的／社会的分析 428	法的分析 431
			1 新伝統主義的反応としてのEUの歴史的背景 445	1 グローバルな次元 435	戦略的分析 434	
			2 排除と統合の振り子の振幅の歴史的背景とEU－トルコ関係 450	2 大陸的次元 437		
			3 文明間の影響とトルコ－EU関係 456	3 地域的次元 438		
			VI 歴史と現実との板挟みのトルコ－EU関係 456			

SAMPLE
Shoshi-Shimizu.com

本書の要約 (監訳者)

序 文 トルコはヨーロッパとアジアの大陸が相互に影響しあう世界の地理的中心に位置し、歴史的にはこの二〇世紀初頭のユーラシアに霸を唱えた英、露、オーストリア＝ハンガリー帝国、仏、独、中、日と並ぶ八大多民族帝国の一つオスマニ帝国の繼承国家であつたが、ヨーロッパ列強によつて征服された多くの民族を含んでいたため、ヨーロッパ列強の植民地支配に対する反帝国主義闘争の結果として樹立された最初の国民国家でもあつた。そのためトルコの国際関係論的分析は他の国々よりも遙かに複雑になる。

冷戦終了後、現在建国以来最も重大な変化を経験しつゝあるトルコ共和国が、歴史上最も大きな変化の舞台となつている国際環境の中で、新たな変容を遂げつつあるのである。本書はポスト冷戦期のトルコの変容という極めてダイナミックな問題を、同じく非常にダイナミックな国際環境の文脈の中で主題化して理解する試みとなる。

ダイナミックな変化の過程にある社会の中につれてそれに属する個人として当該社会に関する戦略を分析するために、本書は、人々の運命に対する主体的道義的責任と、事態の認識のための客観的知的責任を理論的に調和させるよう努めた。この主体性と客觀性を両立させるという問題を解決できない研究は、政治的現実に適用できぬいか、客觀性において説得力を失うかのいずれかとなる。この方法論的欠陥を克服するためには、单一の次元の安易な記述を避けて多次元的なプロセスを考慮し、深みのある分析を行うと同時にシステム統合の全体を見通す学際的なアプローチが必要である。

国際関係論の政治・外交の表舞台は氷山の一角であるが、目に見える現象の背後の見えない根本的な原因の把握には、諸宗教の歴史、政治史、政治経済学、政治社会学、宗教心理学を横断する学際的なアプローチが求められる。トルコの地理的深みを概念化するためには、多くの陸と海の圏域と直接に関わる戦略を分析し、その相関を見出さなければならない。

トルコはグローバルにも中東地域においても戦略上の焦点に位置する枢軸国でありながら、政策決定者と知識人のレベルでの知的混乱によってイスラーム的伝統と西欧近代化の間でアイデンティティが分裂した国、「引き裂かれた国」とみなさ

れている。

トルコは国内的なダイナミズムのボテンシャルを国際的なダイナミズムの坩堝における覇権のパラメータに転換し、カオスの逆流の渦から身を守り、その渦に身を任せカオスからユスモスに移行する行為主体となることで、現在の戦略の不在を解消しなければならない。

トルコの戦略の不在の解消を目指す本書は三部構成となる。第一部は基本概念と問題提起の三章から成っている。第一部は基本概念と問題提起の三章から成っている。第一章では、戦略分析により地理の深みを理解し、そしてそれを実現するための主要な概念的、理論的装置を批判的視角から地政学パラダイムに適用するための道筋を示す。そしてこの枠組によつて、独自の概念枠組として練り上げられた「近隣内陸」、「近隣海洋」、「近隣大陸」という圏域が定義、説明される。残りの三章では順に、トルコの「近隣内陸」、「近隣海洋」、「近隣大陸」という三つの圏域の独自性と、冷戦後の危機の連関にこの圏域を組み込んだ新しい戦略がトルコの外交に与える影響を議論する。

またこの理論的枠組で外交を扱う第三部は五章からなるが、まずトルコの外交に役立つ基本的戦略の道具としてのNATO（北大西洋条約機構）、OSCE（ヨーロッパ安全保障協力機構）、ECCO（経済協力機構）、OIC（イスラーム諸国会議機構、二〇一一年にOrganisation of Islamic Cooperation（イスラーム協力機構）と改称）、BSEC（黒海経済協力機構）、D8（途上八ヵ国経済協力機構）とG20（先進国に新興国を加えた主要二〇ヵ国）を論じる。続いてバルカン諸国、中東、中央アジア、EU（EC）の政治を順に評価し、トルコの未来にとって必要があると考えられる外交の基本を、歴史的、地理的分析に基づき「戦略の深み」というアプローチによって示す。

第一部 概念的、歴史的枠組

第1章 パワーのパラメーターと戦略

国家のパワー（国力）のパラメーターは、短期的、中期的には自己の意志で変えることのできない定数（SV）と、変えうる変数（PV）に分かれるが、国際的な危機的状況が流動的であれば、国家のパワー

監訳者後書

後知恵になるが近現代史を俯瞰すると一九世紀は西欧の世紀だった。当時の西欧の強大さは現代では想像も及ばない。西欧がナチス・ドイツ（第三帝国）に席巻され、第二次世界大戦によって西欧諸国が戦火に巻き込まれ壊滅的な被害を被つた後においてもなお、アジア・アフリカ諸国は自力で独立を果たすことはできなかつた。それらの国々の殆どが独立を果たすには更に十数年を要したのである。

今からほんの八〇年ほど前の世界、つまりすでに物心がついた子供であつて当時のことを今も覚えている世代がまだ生きている過去の世界において、アジア・アフリカの「人間」は確かに西欧人と「同じく人間である」とはみなされていたが、「同じ人間である」とは思われていなかつた。

当時の世界観の中において、「人間」とは（1）「文明人」つまり西欧人（白人）、（2）「野蛮人」（あるいは「半文明人」）すなわち文明人ではないが、西欧が軍事的に征服できないだけの政治力を有する古代文明圏中国、トルコなどの國々の臣民、そして（3）「未開人」、すなわち文明の恩恵に浴さず西欧によつて植民地化された土地の住民、の三つのカテゴリーに分けられていた。非西欧人（有色人種）は「劣つた人間」とみなされ、歐米人と対等な権利を持たないこと、平等に扱われず差別され奴隸のような扱いされることは当然とみなされていたのである。この「西欧の世紀」に文明人たる西欧が世界を支配することを正当化するイデオロギーとして生れたのが地政学という学問であった。

一九世紀が「西欧の世紀」だつたとすると、二〇世紀を一言で纏めると「西欧の自滅の世紀」と言えよう。西欧列強が二度にわたる植民地獲得戦争（第一次、第二次世界大戦）の結果弱体化すると、西欧文明の継承者候補として台頭したイギリスの植民地「海洋帝国」アメリカと西欧化により近代化を果たした「陸上帝国」ソ連がそれぞれ資本主義と共産主義のイデオロギーを掲げてアジア・アフリカ諸国を独立させつい込んで覇を競い（冷戦）、競争に敗れたソ連・共産主義陣営が崩壊すると、アメリカは自らが主導する「新世界秩序」によつて単独世界支配を目指した。

そしてきたる二一世紀は「文明の復興と帝国の再編」の世紀となるだろう。「唯一の文明」西欧文明のリーダーを自認するアメリカが唱える「新世界秩序」に対する反抗の狼煙、イスラーム反体制武装闘争ネットワーク「アルカーハイダ」が引き起こした

「九・一—アメリカ同時多発攻撃」事件によって二一世紀は幕を開けた。アメリカの政治学者サミュエル・ハンチントンは二〇世紀末に『文明の衝突』（一九九六年）において既に共産主義と資本主義のイデオロギーの闘いの後には文明間の衝突の時代が来ると言っていた。中でも西欧文明の仮想敵の候補とされたのはイスラーム文明と中国文明であった。中国は二〇一〇年には日本を抜いて世界第二位の経済大国になり、一带一路のグローバル戦略で軍事的、政治的にもアメリカの覇権を脅かしつつある。

イスラーム文明圏、中国文明圏だけではない。西欧も一九九三年にはEU（歐州連合）を結成しアメリカの覇権に対抗し、ソ連が存在していた時は共産主義陣営に組み込まれていたハンガリー、チェコ、スロバキア、クロアチアなどを併合して東方に拡大し、二〇〇七年には東方正教文明圏のブルガリアまでがEUに加入することになった。またソ連の崩壊による混乱を收拾したロシアは東方正教文明の中核国家だったロシア帝国の復興を目指し、ウクライナ、ジョージアなどで影響力の拡大を図る欧米と衝突している。

現行の独立で平等な主権国家をメンバーとしその相互内政不可侵を建前とする領域国民国家システムは、一七世紀半ばの西欧に成立したウエストファリア体制をモデルとする。ウエストファリア体制を支えた西欧国際公法は既に述べたように西欧の「文明国」だけをフルメンバーとしていた。筆者が生れた一九六〇年は「アフリカの年」と言われ、一月一日にカメリーンがフランスから独立したのを皮切りにアフリカの一七か国が独立したが、まだアジア、アフリカには未開と蔑まれ、独立が許されなかつた多くの地が残されていた。アメリカで奴隸制が廃止されたのは一八六二年だが、公民権法によって黒人差別が撤廃されるのは一九六四年になってからである。領域国民国家システムがほぼ地球全土に拡大され、西欧の植民地（委任統治領などを含む）の殆どが独立してから、まだ五〇年ほどしか経っていないのである。冷戦期にはアメリカとソ連という二つの超大国の冷戦のバランスに基づく二極体制によってこのシステムは維持されてきたが、ソ連の崩壊によってこのバランスが崩れると矛盾が噴出することになる。

三億人の人口と世界の富の三〇%近くを擁する新しい国アメリカ、五六の民族、一五億人の人口を抱え三〇〇〇年の歴史を誇る中国、人口四万人に満たず独自な言語も文化も持たない都市国家モナコ、歴史的に一度も統一国家を持つことがなく国連の認める政府の統治権が国土全体に及ばない破綻国家ソマリアが平等に同じ「国家」である、ということは決して自明の事実でも不変の真理でもない。二〇世紀後半の二極体制・冷戦下で凍結されていた領域国民国家システムの矛盾がソ連の消滅によって解凍されたことが引き金となつて二一世紀の文明の復興、帝国の再編状況の胎動が始まつたのであり、ナチス・ドイツや大日本帝国のイデオロギーとして長らく封印されてきた地政学の復権もこうした状況を背景としている。

西欧の霸権の衰退、アメリカが管理する領域国民国家システムの解体に伴う文明の復興と帝国の再編の動きのうち、中国とロ

シアの台頭は日本でも世間の耳目を集めており、中国、ロシアの地政学的戦略については研究も進んでいる。しかしイスラーム文明圏の動きについては「原理主義者」による「テロ」のような治安問題に矮小化された断片的な情報は伝わってきても、その地政学的なグランドデザインはいつこうに見えてこなかつた。筆者がそんな思いを抱えていた時に出会つたのがダウトオウルの*Stratejik Derimlik*（戦略的深み）であった。

イスラーム政治思想、特に一三一一四世紀のアラブのスンナ派国法学の泰斗イブン・タイミーヤ（一二三二八年没）とその流れを汲む「復古主義者」を専門として研究してきた筆者が、現代のカリフ制再興運動におけるトルコの重要性に気がついたのは二〇世紀末であった。それまであまり気にとめずていたが、オスマン帝国の「スルタン・カリフ制」が滅びたのが一九二二年、カリフ制が廃止されたのは一九二四年、カリフが空位になつてからまだ百年も経つていない。つまりトルコ、そしてオスマン帝国の旧領の住民の中にはカリフの治世の経験者がまだ存命なのである。

世俗主義（ライクリク）を掲げるトルコ共和国の弾圧下でカリフ制再興の想いを抱くオスマン帝国時代を生きたウラマー（イスラーム学者たち）に師事してイスラーム政治運動に携わる者にとってカリフ制は空想ではなくリアルな現実である。それがアラブやその他のムスリム世界のイスラーム政治運動との大きな、そして根本的な違いであり、トルコの現大統領エルドアンも本書の著者ダウトオウル元首相もこうしたオスマン帝国のウラマーたちの遺志を継ぐ政治家である。

Stratejik Derimlik（戦略的深み）は壮大なスケールでトルコのイスラーム主義者の地政学的戦略のグランドデザインを描いた大著である。ダウトオウルは二〇一六年にエルドアンと対立し首相職を辞し、二〇一九年には与党AKP（公正発展党）を脱党し「未来党」を立ち上げた。しかし本書は今もなおエルドアンと公正発展党にとっての外交の戦略指針となつており、トルコの行動を理解し未来を予測するための必読書であり続けている。この現在のトルコ外交をも規定するダウトオウルが理論化した立場は、外部からはしばしば警戒心を込めて「新オスマン主義」とも呼ばれている。欧米、中東、ロシア、バルカン半島、中央アジアの国々との関係のみならず、黒海や東地中海の資源を巡る問題、中東和平へのコミットメント、クルド問題、リビア内戦への介入、アフリカへの進出、アヤソフィアの再モスク化といったエルドアン政権の新オスマン主義的外交行動の意味も、本書に描かれたトルコ外交のグランドデザインを参照することで正しく理解することができる。

二〇一七年五月、同志社大学はダウトオウルを招聘し「戦略的思考の方法——中東のケーススタディ」をテーマに研究会を催し、筆者も客員フェローとして討論に参加した。本書の翻訳の公刊はその場でのダウトオウル氏との約束に基づくものである。翻訳にあたつては、トルコ在住三年のメフメト・ファーティヒ本田恭介氏（イスタンブール大学文学部卒）、久間達也氏（慶應義塾大学文学部東洋史専攻在学中）と筆者で、筆者が前書き、序文、第一部、第二部、第三部第5章、結語、本田氏が第三部第

1—3章、久間氏が第三部第4章を分担し、筆者が監訳者として訳語と文体を整えたが、過ちは全て監訳者の責任である。

ダウトオウルのトルコ語は難解であり、トルコ人を読者として想定して書かれた *Stratejik Dernilik* はイスラーム学、イスラーム地域研究を専門とし、トルコ語はイスラーム学文献しか読んだことがなくトルコ近現代史には疎い筆者は翻訳は極めて荷が重かった。にもかかわらず浅学菲才を顧みず、本田氏、久間氏の協力を仰いでまでも本書を邦訳しようと思いつ立ったのは、本書を日本の読者に届けることが焦眉の急と信じたからである。その理由は三つある。

第一に、日本ではそれぞれ中国文明圏、東方正教文明圏の中核国家であるだけではなく「危険な隣国」でもある中国、ロシアについてはその戦略についての geopolitische 觀点からの研究が進みつつあるが、イスラーム文明圏についてはそのような研究は存在せず、特にトルコをイスラーム文明圏の中核国家とみなす視点は国際政治学にも欠けており、本書はその空白を埋めるものとなるからである。

第二は、地政学的復権の時代におけるトルコの geopolitische 重要性であり、アフロユーラシア大陸の中心に位置し、バルカン半島、ペルシャ湾岸、イスラエルなどの国際紛争の火薬庫に隣接するトルコの geopolitische 重要性を無視しては世界の未来を見通すことはできず、グローバリゼーションの流れの中で極東の日本もトルコの geopolitische 動向を無視することは許されないからである。

最後に、トルコの「今そこにある危機」のためである。ダウトオウルは地理的歴史的「深み」を有しイスラーム文明圏の中核国家の繼承国であると同時に西欧文明圏の一角でもあり内部に多くの矛盾を抱えるトルコのような国は、その矛盾を活かすことができれば地域の中軸国家として世界の中で名譽ある地位を占めることができるが失敗すれば生き残ることすらできない、と述べている。

現在の A K P エルドアン政権はダウトオウルが本書で描いた青写真に則りイスラーム文明圏の中核国家としての再生の道を歩んでいる。しかし現在のトルコにはその geopolitische 重要性に相応しい経済力、軍事力はない。アメリカのアフガニスタン侵略、イラク侵略によるアフガニスタン、イラクに続き、二〇二一年の「アラブの春」によってシリア、イエメン、リビアが破綻国家化している。更に二〇一七年トランプ政権の成立以来イランとアメリカは一触即発の臨戦状態にあり、中東情勢は流動化し、トルコは極めて難しい舵取りを迫られている。

積年のアルメニア、ギリシャとの敵対関係に加えてシリア難民・クルド問題をめぐって欧米と、リビア問題をめぐってフランスと、シリア内戦をめぐってシリア、イラン、ロシアと、ムスリム同胞団をめぐってサウジアラビア、U A E、エジプトと、中東和平をめぐってアメリカ、イスラエルと厳しく対立し四面楚歌に陥りながら新オスマン主義外交を推し進めるエルドアン政権の強硬姿勢は冒險主義との誘惑を免れない。

私見によるとトルコは今、その「戦略的深み」を活かしオスマントルコ帝国の旧領と新疆ウイグル自治区にまで広がる中央アジアのテュルク・イスラーム世界を纏め上げ、東と西の文明架橋国家となつて人類の未来に貢献することができるか、そうでなければ中東情勢の流動化を加速化させ自滅の道を辿るかの岐路に立たされている。最悪のシナリオは「民主化」を旗印に掲げたアメリカとイスラエルの軍事介入により隣国イランでイスラーム体制が崩壊して破綻国家化し一千万単位の難民がトルコに流入し、そしてその「民主化」の波がトルコにも波及しエルドアン政権が連鎖的に崩壊し、シリア難民に加えてイラン、トルコからの新たな一千万単位の難民が西欧に雪崩れ込むことである。

一九七八年以来のアフガニスタン内戦では総計一千万人近くの難民が生じたが、隣国パキスタン、イランがそれぞれ五〇〇万人前後の難民を吸収した。一方で現在までの約六〇〇万人の国外難民を出したシリア内戦ではトルコ一国で三五〇万人の難民を受け入れている。しかし二〇一五年のシリア難民危機では僅か一〇〇万人の難民の流入によってヨーロッパはパニックに陥り、難民の受け入れを拒否し、一挙に排外主義が高まった。中東で政権の崩壊の連鎖が生じ陸続きのトルコからヨーロッパに一千万人単位の難民が殺到する事態になれば、「テロ」やCOVID-19禍などとは比較にならないゲルマン民族の大移動に匹敵するデモグラフィックな大変動が起き、ヨーロッパには予測不能な混沌がもたらされることにもなりかねない。

その意味で新オスマントルコはアフロヨーラシア大陸の中央部を占めるというその地政学的な位置のために東西の文明架橋国家としてのそのポジティブな可能性によってというよりも、むしろその崩壊が人類史的な破局をもたらしうるというネガティブな危険性によつて、端倪すべからざる存在なのである。

ギリシャ語、アラビア語、ブルガリア語、セルビア語、アルバニア語、マケドニア語、ペルシャ語、ハンガリー語など近隣諸国¹の言語に訳されていることは、本書の「現実的な」重要性を示している。他方、その重要性にもかかわらず、本書はこれまで歐米、アジアの諸言語には訳されてこなかつたが、現在英訳の刊行の準備が進んでいると聞く。

本書が欧米でも議論を呼び、日本でもトルコ研究者、イスラーム地域研究者のサークルを超えて、世界の未来に目を向ける学生、知識人、特に外交、ビジネス、ジャーナリズムなどの分野でグローバルに活躍する人士の目に留まり、監訳者の訳業への批判や新オスマン主義への懸念を含めた活発な議論が巻き起こるための引き金になれば、筆者の望外の幸せである。

最後に採算を度外視して本邦ではまだ無名のダウトオウル氏の大著の翻訳の出版を引き受けて下さった書肆心水の清藤洋氏、翻訳の出版許可を得るにあたってキュレ出版との間での仲介の労をとつて下さったイブン・ハルドゥーン大学講師山本直輝博士に感謝の意を表したい。

索引

亀甲括弧内の訳注、解説、監訳者後書、部と章の見出しあり対象外

数字・ローマ字略語

- 3B (ベルリン＝ビザンティウム－バグダード)
政策……344
- 7B (ベルリン＝ブダペスト－ベオグラード－
ビュクレシュ－ボアズラル－バグダード－
ボンペイ) ユーラシア戦略……94
- ALB (空－陸戦争ドクトリン) ……128
- APEC (アジア太平洋経済会議) ……186, 187,
199, 403, 435
- BSEC (黒海経済協力機構) ……24, 34, 35, 55,
166, 167, 188, 198, 201, 207, 212–214, 252–
257, 286, 407, 414, 420, 439, 443
- CENTO (中央条約機構) ……126, 194, 215, 247,
249, 303
- CFSP (共同外交安全保障政策) ……186
- CHP (共和人民党) ……116
- CIA (中央情報局) ……381
- COMCEC (商業経済協力常任委員会) ……233
- CSCE (全ヨーロッパ安全保障協力会議) ……
227–229, 425
- D8 (途上8カ国経済協力機構) ……24, 34, 35,
55, 212–214, 256, 257
- DSP (民主左派党) ……29, 115, 116
- ECO (経済協力機構) ……24, 34, 35, 55, 167,
201, 212–214, 243, 247–252, 254–257, 371,
407, 414, 419, 420
- EC (ヨーロッパ共同体) ……24, 101, 104, 175,
435
- ESDI (ヨーロッパ安全保障防衛アイデンティティ
ィー) ……186, 223, 270
- EU (ヨーロッパ連合) ……7, 11, 24, 26, 28, 34,
35, 38, 39, 55, 61, 64, 66, 81, 85, 101, 109,
112, 153, 175, 177–179, 185, 186, 194, 196–
198, 200, 205–210, 212–214, 218, 221, 222,
224–226, 228, 238, 243, 244, 247, 248, 253–
256, 258, 259, 266, 271, 280, 286, 304, 307–
310, 343, 344, 362, 364, 365, 370–

- 373, 381, 382, 393, 398, 400–404, 407, 416,
417, 422–440, 443–447, 449–458, 466, 469,
487
- F16戦闘機……79
- FIR (飛行情報区) ……174
- FOFA (縦深攻撃ドクトリン) ……128
- G20 (先進国に新興国を加えた主要20カ国)
……11, 24, 35, 55, 214, 230, 254, 257, 259–
262
- G8……105, 187, 205, 229, 230, 257–262, 402, 408
- GAP (南アナトリアプロジェクト) ……143,
150, 156, 167, 299, 347, 376
- ICCI (イスラーム商工会議連盟) ……233
- ICDT (商業開発センター) ……233
- ICECSA (経済社会文化事務コミッショナ)
……233
- IDB (イスラーム開発銀行) ……233
- IRA (アイルランド共和国軍) ……94, 236
- IRCICA (イスラーム歴史文化芸術研究センター)
……233, 243
- ISESCO (イスラーム教育科学文化組織) ……
233
- KFOR (コソボ治安維持部隊) ……268, 279
- LIC (低強度紛争) ……30, 128
- MGK (国民安全保障会議) ……83
- MHP (民族主義者行動党) ……29, 115, 116
- MITI (通産省) ……189
- NAFTA (北米自由貿易協定) ……106, 186, 187,
199, 205, 402, 403, 435
- NATO (北大西洋条約機構) ……11, 24, 34, 35,
55, 78, 89, 100, 104, 126, 128, 134, 140, 157,
163–165, 177, 183, 186, 187, 194, 197, 198,
204–207, 213–215, 217–231, 256, 258, 265–
270, 272, 275–278, 286, 287, 318, 343–346,
364, 369, 373, 400–402, 408, 415, 435, 437–
439, 442, 444, 466
- OICC (イスラーム都市首脳組織) ……233
- OIC (イスラーム諸国会議機構) ……24, 34,

35, 55, 101, 194, 213, 214, 231, 233, 237, 241
-247, 287, 343, 355, 356, 362, 364
OPEC（石油輸出国機構）……297
OSCE（ヨーロッパ安全保障協力機構）……24,
35, 55, 197, 198, 214, 227-231, 253, 400, 437
PKK（クルディスタン労働者党）……28, 29,
110, 114, 115, 152, 155, 178, 179, 340, 344,
346-348, 356, 357, 364, 376, 378, 379, 382-
384, 425, 443
PLO（パレスチナ解放機構）……152, 304, 306,
334, 335, 338, 363
RCD（地域開発協力機構）……194, 247
S300ミサイル……178, 179, 348
SALT協議……228
SEATO（東南アジア条約機構）……126, 215
SESRTCIC（経済社会統計研究教育センター）
……233
TBMM（トルコ国民大議会）……83, 84

SAMPLE
あ 行

アースリー川……298
アーリア……331-333, 338
アーリア人……328, 453
アヴェロフ……161
アヴェンティヌス……449
赤い前衛……304
アカバ湾……37, 315
アクサー・モスク……233, 342, 343
アサド、ハーフィズ……324-326, 358
アサド、バッシャール……326
アサビーヤ……58, 377, 454
アジア……6, 9, 12, 23, 27, 29, 31, 33, 34, 36, 37,
38, 40, 63, 101, 102, 107, 114, 117, 122, 125,
127, 135, 136, 140, 145, 167, 171, 177, 178,
181, 184, 187-191, 193-201, 203, 206-210,
213, 230, 232, 234, 238, 242-244, 246-251,
253, 256, 259-261, 290, 296, 307, 310-312,
335, 337, 351, 352, 362, 366, 367, 370, 372-
376, 386-390, 398, 400-406, 408, 410, 412-
417, 420, 421, 436-438, 441, 464, 468-470,
486, 488 →アフロアジア 北アジア 東
アジア 東南アジア 南東アジア 南西ア
ジア 西アジア 中央アジア
アジ／ア／メリカ……106, 187, 199, 403

アストラ・ハン国……392
アゼルバイジャン……3, 29, 102, 115, 130, 131,
141-143, 154, 155, 180, 182, 212, 253, 283,
371, 373, 394, 398, 410, 411, 414, 419
アゼルバイジャン－アルメニア戦争……143,
154
アタテュルク……90, 99, 194
アダナ……156, 350
アダム……122, 328
アッカド……346
アッシリア……36, 312, 346
アッバース朝……122, 332, 352
アッラーフエクベル山脈……89, 468
アデナウアー……93
アデン湾……177, 178, 291
アドリア海……31, 81, 89, 123, 129, 135, 140,
142, 160, 173, 175-177, 207, 209, 212, 219,
226, 265, 266, 269, 270, 275, 276, 281, 283,
347
アナクシメネス……121
アナトリア……30-32, 64, 89, 90, 95, 99, 100,
116, 125, 133, 134, 136, 138, 140, 145, 147,
156, 159, 164, 168, 174, 180, 192, 193, 201,
239, 250, 251, 253, 282, 287, 291, 293, 296,
346, 350, 367-369, 375, 382-384, 386, 391,
392, 432, 443, 448, 463, 465, 468, 469, 488
→東アナトリア
アパルトヘイト……188
アフガニスタン……12, 30, 49, 99, 126-128,
131, 132, 148, 162, 163, 182, 199, 201, 217,
232, 234, 240, 241, 247, 248, 311, 367, 375,
377, 391, 399, 406-408, 411, 418, 488
アブデュルアズィズ……160
アブデュルハミト2世……29, 73, 86, 87, 98, 392
アブドゥッラー（サウジ国王）……325
アブドゥッラー2世（ヨルダン国王）……316,
317
アブハジア……4, 131, 141
アブハジア人……4
アブハズ……141, 142
アフマド・スライマーン・タンジー……123
アブラハム……290, 336, 341
アフリカ……6, 7, 9, 12, 29, 31, 33, 34, 36, 63,
101, 107, 108, 114, 123, 128, 133, 150, 167,
177, 189, 194, 196, 198, 201-204, 208-210,

- 213, 232, 234, 238, 242, 244, 246, 256, 260, 261, 268, 290, 312, 335, 362, 393, 461, 488
→北アフリカ 東アフリカ 南アフリカ
南東アフリカ
アフロアジア……129, 188, 232–234, 237
アフロユーラシア……8, 32, 36, 76, 145, 146, 168, 169, 171, 172, 174, 186, 187, 208, 210, 220, 231, 237, 253, 257, 290–292, 296, 302, 304, 367, 368, 414, 461, 463, 465
アマヌッラー・ハーン……240
アメリカ……10, 26, 28, 30, 34, 35, 40, 43, 48, 49, 61, 62, 66–68, 71, 74, 76, 77, 84, 86, 94, 100, 101, 103, 105, 106, 112, 125–129, 134, 139, 141, 148, 151, 152, 157, 162, 163, 166, 168, 171, 176–180, 184–190, 194, 197–200, 204–207, 213, 215–222, 224, 227–230, 235, 238, 241, 243, 249, 250, 257, 258, 260, 264–269, 278, 280–282, 287, 288, 291, 292, 297, 299, 302–312, 315–317, 321–323, 331, 333, 335, 339, 343, 344, 350, 355–357, 360–363, 370–373, 376, 379–383, 389, 390, 394, 398, 399–405, 407, 408, 410, 415–420, 427, 435, 436, 439, 442, 444, 463, 464, 470, 488
アラヴィー派 →スサイリー（アラヴィー）派
アラビア半島……167
アラブ……7, 37, 87, 90, 122, 144, 152, 153, 189, 194, 201, 233, 242, 246, 294, 297, 301, 303, 304, 306, 307, 309–311, 313–315, 317–326, 332, 334, 338–342, 348, 349, 351–365, 373, 374, 376–378, 386, 409, 410
アラファト……152, 304, 310, 316, 317, 322, 326, 341, 342, 364
アラブ人……115, 309, 310, 317, 323, 324, 333, 336, 338, 343, 352–354, 358, 376, 387
「アラブの叛乱」……323
アルザース＝ロレーヌ……369
アルジェリア……87, 112, 201, 229, 235, 241, 308, 309, 323, 325, 454, 486
アルスラン, アルブ……368
アルゼンチン……104, 259, 260
アルダハン……73, 87, 140, 225, 369
アルバニア……4, 13, 139, 140, 142, 146, 222, 231, 234, 253, 268, 270–272, 276–278, 280, 283–285, 444
アルバニア人……4, 35, 88, 138, 276–285, 287, 439, 468
アルミハリール（ヘブロン）……336
アルビー・スラト・フセインオウル……142
アルメニア……3, 76, 97, 115, 130, 131, 141, 142, 154, 155, 180, 253, 331, 373, 383, 418
アルメニアのロビー……358, 360
アレキサンダー大王……121–123, 131, 145, 190, 193, 293
アレキサンドリア……121, 123
アレッポ……156, 350
アンカラ条約……424, 428
アングロサクソン……196, 260
アンドルス……117
アンチセミティズム……301
アンティオキア……318
イエス……332
イエメン……128, 148, 151, 160, 314
イギリス……26, 28, 40, 43, 62, 75, 94, 98, 104, 105, 112, 113, 123, 125, 126, 141, 146, 147, 152, 160, 161, 168–171, 177, 188–191, 204, 206, 218, 235, 238–241, 251, 258, 264, 268, 281, 290, 291, 301, 303, 306, 308, 309, 317, 321, 323, 330, 331, 333, 335, 344, 354, 357, 360, 363, 369, 380, 386, 389–392, 395, 398, 404, 417, 438–442, 446, 447, 453, 454, 462, 464, 465, 467
イギリス内戦……43
イシュマイル……336
イスケンデルン湾……173, 178, 192, 347
イスタンブル……88, 89, 99, 123, 134, 140, 156, 161, 167, 168, 172, 201, 231, 233, 243, 253, 352, 391
イスタンブル条約……169
イスパニヤ（スペイン）……62
イスファハーン……391
イスマイル・ジエム……281
イスラーム・テロ……236
イスラーム爆弾……236
イスラーム・フォビア……452
イスラエル……12, 32, 37, 90, 115, 148, 150, 152, 153, 155, 165, 178, 222, 229, 232, 233, 241, 242, 253, 280, 293–295, 297, 299–301, 303, 304, 307, 309–311, 313, 315, 317–324, 326, 327, 329, 331, 332–344, 347–351, 355, 357, 359–366, 371, 373, 374, 377, 378, 380

406, 416, 419

イゼトベゴヴィッチ, アリーヤ……88, 282
 イタリア……115, 117, 121, 123, 161, 205, 208,
 240, 260, 270, 285, 291, 309, 325, 347, 348,
 353
 イデオロギー……25, 32, 59, 69, 82, 84, 87, 91,
 106, 108, 129, 141, 148, 149, 156, 182, 189,
 190, 194, 195, 198, 232, 242, 249, 268, 291,
 300, 301, 310, 311, 313, 319, 321, 323, 328,
 362, 370, 371, 395, 396, 401, 412, 413, 417,
 423, 436, 442, 443, 450, 464, 467

伊土戦争……160, 202

イブ……328

イブラーヒーム・パシャ……201

イブン・ハルドゥーン……58, 377, 454

イベリア半島……117, 291

イラク……4, 11, 12, 30, 31, 37, 63, 104, 107,
 126, 130, 131, 143, 148, 150–154, 156, 157,
 184, 240, 265, 267, 269, 292, 294, 297–301,
 304–307, 309, 311–316, 318–320, 323–325,
 334, 339, 340, 343–347, 350, 351, 355–359,
 363, 364, 369, 371, 373–383, 386, 410, 415,
 466, 488

イラン……31, 33, 35, 36, 63, 99, 120–122, 130,
 132, 141, 142, 148, 151, 153–156, 165, 182,
 183, 189, 190, 192, 199, 214, 217, 232, 240,
 246–250, 257, 290, 293, 297–299, 303–305,
 309, 310, 312–316, 318–321, 339, 340, 344,
 346, 347, 350–352, 356, 357, 359, 362–364,
 366–376, 378, 380, 389–391, 398, 403, 406–
 408, 411, 415, 417–420, 440, 468, 488

イラン・イラク戦争……30, 130, 152, 163, 245,
 304, 315, 319, 320, 344, 346, 351, 356, 359,
 371, 373, 378

イラン革命……30, 130, 148, 241, 247, 299, 303,
 304, 312, 317, 370, 376 →人質問題（イラ
 ン革命）

イラン系ゴール朝……250

イングルリッキ基地／空港……177, 181, 221,
 356, 357, 381, 383

インティファーダ……336, 338, 342

インド……40, 63, 104, 112, 117, 121, 122, 126,
 131, 132, 144, 147, 167, 182, 188–192, 199,
 202, 233, 235, 236, 238, 246, 248–251, 259,
 260, 291, 292, 296, 328, 335, 367, 368, 372,

373, 389–393, 395, 398, 403, 406–408, 411,

414, 416–418, 451, 452, 454, 467, 470, 486
 インド亜大陸……31, 136, 144, 232, 388, 395

インドシナ……291, 375

インドネシア……76, 168, 199, 202, 233, 246,
 256, 259, 260, 335, 406, 486

インド洋……32, 34, 122, 123, 131, 132, 159,
 167, 168, 181, 182, 189, 190, 193, 201, 237,
 296, 346, 368, 376, 395, 414, 418

インド洋艦隊……163

インド洋協力機構……188

ヴァグナー……137

ヴァタン・スィルスィトレ……468

ヴァチカン……310, 353

ヴァルダル川……35, 78, 130, 263, 272, 276

ヴァン……156

ウィーン会議……28, 93, 111, 112

ウィーン体制……434, 446

ウィーン包囲……97

ウイグル……132, 396, 405

ヴィシェグラーード……273

ヴィスマ川……206, 207

ヴィルソン原則……331

ヴィルヘルム2世……74, 93, 440, 446

ウエストファリア国際システム……196

ウエストファリア条約……27, 58, 97, 445

ウエストファリア体制……58, 124, 197, 434,
 448

ヴェルサイユ条約……93

ヴォイヴォディナ……284

ヴォルガ川……159, 164, 167, 191, 207, 253

ウクライナ……166, 189, 191, 192, 207, 222,
 253, 255, 398, 401, 406, 437

ウズベキスタン……29, 31, 115, 132, 141, 154,
 182, 199, 394, 396–398, 408–411, 419

ウズベク……391, 392, 396, 409

ウズベク人……410

ウマイヤ朝……352

ウラジオストク……229

ウラルカスピ海……388

ウラル山脈……196, 197, 206, 207, 256

ウラル平原……203

ウルドゥー語……246

ウルファ……352

ウンキヤル・スケレッジ条約……169

- エーゲ海……10, 32, 33, 79, 120, 123, 139, 157, 159–161, 163–166, 173–177, 180, 181, 184, 193, 198, 281, 345, 347, 427, 457, 461 → 北エーゲ諸島 北東エーゲ諸島 東エーゲ諸島 南エーゲ諸島
- エジプト……36, 37, 104, 107, 120, 121, 147, 151, 153, 189, 192–194, 201, 202, 208, 216, 229, 253, 256, 290, 292, 293, 296, 297, 301, 303, 304, 311–315, 318–320, 322–324, 330, 334, 347, 350, 351, 355, 356, 359, 363, 368, 373, 389, 392, 486
- エズィ城……468
- エストニア……451
- エスニック集団……100, 333, 358
- エチオピア……122, 148, 240, 362
- エチオピア人……122
- エディルネ条約……169
- エフロン……336
- エラストステネス……121
- エリコ（アリーハ）……338, 340, 341
- エルサルバドル……488
- エルサレム……50, 145, 233, 292, 295, 310, 316, 338, 341–343, 361
- エルズルム高原……88, 89, 140, 192, 194
- エルチベイ……142, 410
- エンヴェル・パシャ……29, 89, 115, 392, 412
- オイルショック……309
- オーストラリア……168, 187, 259, 260
- オーストリア……76, 137, 169, 271, 281, 440, 441
- オーストリア－ハンガリー……23, 51, 464, 465
- オクラホマ連邦政府ビル爆破事件……94
- オザル, トゥルグト……28, 110–112, 116, 425
- オジャラン, アブドゥッラー……115, 212, 348, 379, 381–384, 425
- オーストリア－ハンガリー……23, 51, 464, 465
- オスマン主義……28, 110, 111, 239 → 新オスマン主義
- オスマン朝……36, 58, 69, 70, 200, 293, 295, 312, 332, 346, 352, 354, 367, 368
- オスマン帝国……13, 23, 27–29, 31, 32, 34–36, 63, 64, 71, 73, 75, 78, 86–88, 90, 92, 93, 95, 97–100, 107, 108, 110–113, 115–117, 123, 130, 137–140, 146, 147, 151, 154, 155, 157, 159–161, 167–171, 180, 181, 189–191, 193, 194, 201, 202, 205, 207, 208, 226, 232–234, 239, 240, 242, 251, 255, 274, 276, 281–283, 286, 287, 290, 293–296, 298, 301, 310, 318, 321, 323, 324, 331, 352, 353, 358, 368, 369, 379, 383, 384, 386, 389, 391, 392, 432, 439–441, 446–449, 452, 463–465, 468, 469, 488, 489
- オスロ……265, 309, 339
- オランダ……146, 168, 204, 241
- 『オリーブ山』……353

か 行

- カースト制……328
- カーター……297
- カーター・ドクトリン……126
- カール大帝……74, 75
- カイセリ……350
- カイゼル……206
- カイバル峠……131, 375, 406
- 海洋地政学……77, 126, 127, 291, 302, 392
- 戒律（ユダヤ教）……328
- カイロ……319, 321, 352
- カイロ首脳会議……363
- 核（兵器／技術／戦争／戦力／の脅威）……30, 127, 128, 133, 191, 216, 258, 263, 291, 346
- ガザ……338, 340, 341
- ガザフスタン……29, 31, 115, 141, 182, 188, 199, 393, 394, 398, 407–411, 419
- カザフスタン・ステップ……392
- カザン……234
- カシミール……63, 132, 236, 258, 407
- ガズィアンテープ……156, 350
- ガズナ朝……131, 250, 390, 391
- カスピ海……9, 31, 32–34, 36, 121, 133, 135, 141, 142, 159, 164, 165, 172, 177, 179, 181, 182, 190, 192, 210, 213, 222, 253, 283, 290, 292, 347, 367, 374–376, 388, 391, 394, 401, 407, 415, 418, 420, 439, 461
- カスレ・シリーン条約……63, 372
- カソス島……174
- カトリック……130, 201, 236, 260, 282, 309, 310, 330, 343, 467
- カトリック・テロ……236
- カナダ……186, 229, 260

SAMPLE
Shishii-Shinsuru.com

カピチュレーション……168
 カフラマンマラシュ……156, 350
 神の殺害者……332
 カラカルパク……396
 カラコルム……132, 407
 カラチャイ・チエルケス自治区……142
 カラバフ……142, 466
 権太……417
 カラ・ムスタファ・パシャ……238
 カリブ……12, 128, 180
 カリフ制……98, 100, 239, 251
 カリフ・マムーン……122
 カルス……73, 87, 140, 225, 369
 カルス・アルダハン国境……89
 カルダク岩礁……175–177
 カルダク危機……162, 175, 176
 カルタゴ……201
 カルパトス島……174
 カルロヴィツィ条約……97, 412
 韓国……126, 229, 259, 398, 406
 ガンジス川……290
 緩衝国……37, 206, 281, 315, 438, 441
 關稅同盟……39, 223, 425, 428–430, 457, 458
 乾燥ステップ……290
 カンボジア……489
 キクラト諸島……174
 キサラ島……174
 北アジア……190
 北アフリカ……9, 31, 33, 34, 62, 87, 123, 135,
 136, 160, 177, 178, 183, 184, 188, 189, 192,
 193, 196, 201–203, 208, 209, 229, 235, 246,
 319, 389, 445
 北アルプス……207
 北エーゲ諸島……174
 北コーカサス……33, 89, 112, 131, 141–143,
 182, 298, 299, 346
 北スボラト諸島……174
 北朝鮮……402, 408, 489
 キッシンジャー……86, 490
 キプチャク・ハン国……232, 234
 キプロス……10–12, 32, 33, 78, 79, 101, 104,
 139, 153, 157, 158, 160, 163–165, 173, 176–
 181, 184, 194, 233, 241, 258, 262, 284, 347–
 349, 355, 359, 361, 365, 427, 430, 443, 457,
 488

キャーズィム・カラベキル……73, 89, 140
 キャンプ・デービッド……216, 297, 303, 304,
 310, 314, 320, 322, 341, 342, 356, 359, 363
 急進主義……236, 301, 337, 341
 キューバ……128, 132, 180, 216, 268, 488
 キュチュク・カナルジャ条約……97, 169,
 171, 293
 ギュルハネ勅令……200
 教皇……204, 287
 教皇アレクサンデル3世……122
 教皇インノケンティウス4世……122
 共産主義……91, 109, 113, 254, 259, 281, 328,
 392 →ボリシェビキ(革命／主義) マル
 クス主義
 共同外交……35, 213
 恐怖の均衡……128, 263, 291, 346
 極東……79, 122, 389, 393
 キヨステンジェ……156, 167
 キリアス・アルバ……336
 ギリシャ……10, 13, 32, 33, 35, 78, 88, 100, 101,
 120–122, 137, 139, 144, 154–158, 160–165,
 170, 173–180, 184, 185, 194, 208, 224, 225,
 236, 253, 254, 260, 263, 270, 271, 278, 281,
 282, 284, 285, 310, 331, 347, 349, 350, 358,
 360, 364, 365, 381–383, 395, 412, 423, 424,
 426, 427, 429, 430, 438, 439, 444, 458
 ギリシャ内戦……488
 ギリシャ半島……137
 キリスト教……32, 94, 121, 122, 146, 149, 238,
 293, 328, 329, 332, 343, 352, 367, 448, 453,
 456
 『キリスト教地誌』……122
 キリスト教徒……100, 138, 293, 294, 310, 329,
 341, 343
 ギリト……160
 キルギスタン……29, 115, 394, 398, 405, 408–
 411
 キルクーク……87, 131, 181
 キルクーク－ユムルタルック(バイオライン)
 ……319, 355, 359, 364, 383
 近東……137, 138, 144, 389
 近隣海洋圏……8, 9, 31, 32, 39, 135, 158, 159,
 173, 174, 195, 208, 209, 231, 252, 255, 283,
 347, 387, 431, 461, 464–466
 近隣圏域……136, 165

- 近隣大陸圏……8, 9, 31, 33, 38, 39, 135, 173,
183–185, 189–192, 194–196, 198, 203, 209,
210, 231, 252, 256, 289, 292, 345, 347, 366,
387, 401, 422, 427, 431, 457, 458, 461, 465,
466
- 近隣内陸圏……8, 9, 31, 135, 136, 138, 145, 153–
155, 158, 164, 173, 183, 195, 196, 205, 207–
209, 231, 387, 431, 461, 464–466
- グアテマラ……488
- クウェート……3, 30, 130, 131, 151–153, 269,
302, 304, 309, 314, 318–320, 324, 356–378,
410
- クナルザーデ……58
- クラウゼヴィッツ……58, 70, 490
- クラジナ……276
- グラスノスチ……228
- グラナダ……488
- クリミア戦争……97, 100, 226, 401, 441, 449
- クリミア・ハン国……201
- クリントン, ビル……238, 307, 310, 452
- クルジャアリ……283
- クルチ・アルスラン2世……250
- クルド問題……37, 114, 375–379, 381–383, 386
- グレートゲーム……72, 131, 132, 169, 190, 199,
389
- クレリデス……365
- クロアチア……35, 230, 263, 265, 266, 270–276,
281, 284–286, 309, 444
- クロアチア人……271–273, 275–277, 281
- グローバル大国……9–11, 33, 174, 181, 188,
191, 300, 356, 360, 398, 401, 415, 416
- グローバル列強……181, 199, 310, 343, 358,
360, 373, 376, 378, 388, 398, 399, 406
- グロズヌイ……89
- 経済地理……9, 27, 34, 52, 61, 64, 90, 91, 102,
106, 130, 198–201, 210, 295, 465
- 啓蒙哲学……114, 412, 450
- ケストラー, アーサー……327, 487
- ゲットー……275, 277, 327–330, 332, 333, 337
- ケニア……381
- ケネディー, ポール……47, 305
- ケヒッラー（会衆）……329
- ケルト人……122
- ゲルマン……206, 222, 265, 281, 282, 351–353,
453, 457
- ゲルマン人……63
- ゲルマン族……196
- ケルン首脳会議……257, 259
- 権威主義（の体制）……107, 108, 156, 369, 370
- ゲンジェ……142
- 憲法……106, 275, 369, 433
- 原理主義……94, 236, 282, 337
- 紅海……31, 32, 34, 36, 135, 160, 167, 174, 180,
181, 189, 193, 201, 210, 290, 296, 347, 461
- 後背地……31, 39, 75, 98, 99, 103, 118, 135, 144,
176, 200, 208, 209, 273, 356, 441, 442, 458
- コーエン, サウル……30, 128, 488, 490
- コーカサス……3, 4, 6, 9, 10, 31, 33, 39, 51, 64,
73, 87–89, 91, 100, 109, 113, 117, 129–131,
133, 135, 136, 139–144, 147, 148, 150, 154,
157, 164–166, 179, 182, 183, 192–194, 200,
207, 212, 220, 230, 232, 237, 241, 248, 249,
253, 255, 256, 283, 284, 290, 292, 298, 300,
311, 344–347, 350, 367, 371–376, 387, 389,
392, 394, 395, 401, 402, 407, 414, 415, 418,
423, 427, 437–442, 461, 464, 465 → 北ヨー
カサス 南ヨーカサス
- ヨーカンド・ハン国……409
- コール, ヘルムート……93
- 国際連合……215, 301, 434
- 国際連盟……331, 434
- 国民憲章……99
- コスマス・インディコプレウステス……121,
122
- コソボ……3, 4, 11, 35, 78, 105, 130, 138, 139,
177, 186, 205, 207, 216–220, 226, 230, 231,
236, 258, 262–264, 266–287, 343, 439, 466
- コソボ人……4
- 古代……25, 58, 69, 121–124, 146, 151, 190–193,
204, 208, 210, 235, 237, 290, 292, 293, 295,
338, 395, 447–449
- 黒海……9, 31–34, 36, 121, 123, 135, 140, 141,
143, 144, 150, 159, 163–172, 174–176, 178,
181, 182, 190–193, 196, 198, 199, 206–208,
210, 213, 232, 237, 248, 252–256, 271, 290,
292, 296, 345, 347, 367, 374, 375, 391, 401,
414, 415, 418, 439, 443, 447, 461, 468
- 黒海艦隊……163, 171
- 国教……464
- コペンハーゲン基準……382, 426, 432, 433

ゴマル峠……131, 406
 コムネノス2世……251
 ゴラジュデ……113, 274
 ゴラン高原……150, 349, 366
 ゴルディアスの結び目……145
 ゴルバチョフ……228, 402
 コンスタンティノープル総主教序……139
 コンタクト・グループ……241, 287
 コンヤ……350, 352, 391
 コンヤ平原……89

さ 行

サーダーバード条約……240
 サイード、エドワード……320, 321
 サヴァ川……35, 78, 130, 263, 272, 275
 サウジアラビア……37, 73, 151, 178, 259, 260,
 297, 313-315, 319, 323, 325, 350, 351, 356,
 363
 サカルヤ……193, 468
 ササン朝……346, 367, 368
 サダト……297
 サヌースィー教団……202
 ザバ……273
 ザハラ砂漠……193, 201, 202, 246, 292
 ザファヴィー朝……36, 191, 312, 367, 368, 391,
 392
 ザブラ・シャティーラ虐殺……328, 342
 サマルカンド……391, 409, 410
 サラ……336
 サラエボ……193, 272, 274
 サラセン軍……238
 サリカミシュ会戦……73, 89
 サルプ村……140
 三角関係……36, 312, 314, 362, 363, 442
 三角形……37, 312, 313
 三角形（内側の）……37, 313-315, 317, 350
 三角形（外側の）……37, 313-315, 350
 三角形（アフガニスタン-タジキスタン-カ
 シミール）……407
 三角形（イラク-イラン-ヨルダン）……315
 三角形（イラク-シリア-サウジアラビア）
 ……37, 313, 315, 350
 三角形（エジプト-シリア-イラク）……314
 三角形（エジプト-シリア-サウジアラビア）

……314, 315
 三角形（エジプト-トルコ-イラン）……
 312, 315
 三角形（中東-ヨーカサス-バルカン半島）
 ……344
 三角形（トルコ-イラン-イラク）……314
 三角形（トルコ-イラン-エジプト）……
 350, 351, 373
 三角形（トルコ-エジプト-イスラエル）
 ……315
 三角形（トルコ-シリア-エジプト）……351
 三角形（ヨルダン-パレスチナ-レバノン）
 ……37, 313, 315
 三角形均衡……37, 313
 三角形地帯……36, 132, 312, 344, 407
 三角形メカニズム……312
 産業革命……145, 147, 191, 205, 296, 449
 サンジャク……139, 270, 274, 275, 283, 285
 三十年戦争……58, 62, 204, 445
 サンヘドリン……329
 サン・レモ会議……331
 シーク教徒……238
 シーパワー……369
 シーラーズ……391
 ジェイハン……179
 シェイフ・エデバリ……116
 ジェラリーの乱……95
 シオニスト……332
 シオニスト会議……330, 331, 333, 338
 シオニズム……327-332
 自称クルド議会……348
 システム……7, 9, 13, 23, 27, 29, 33, 49, 50, 53,
 60, 66, 67, 75, 96-100, 103-107, 109, 110,
 112, 113, 116, 118, 124, 127, 130, 135, 150,
 152, 160, 183, 185, 196-198, 200, 204, 205,
 210, 215, 216, 218-221, 234, 237, 238, 259-
 261, 263, 269, 273, 297, 329, 348, 365, 380,
 395, 396, 434, 435, 448, 449, 454, 461
 シチリア……121, 208
 実証主義……116
 ジフコフ、ドル……88
 ジプラルタル……62
 ジプラルタル海峡……167, 237, 291
 シベリア……126, 388, 393, 401
 資本主義……30, 78, 123, 129, 191, 196, 202,

SAMPLE
Sohi-Shinsu.com

259, 260, 297, 303, 307, 308, 310, 395, 399,
402, 404, 435
シャー……304, 362, 363, 368–370
シャーデニズ油田……419
シャイフ・シャーミル……87, 113, 140
シャットウルアラブ……318
ジャラールッディーン・ルーミー……40, 469
→メヴラナ『マスナヴィー』
シャリーフ・フェイン……321
シャルルマーニュ……369, 445
シャロン, アリエル……342, 343
ジャンピラド……316
周縁地帯……126, 148, 162, 171, 199, 200, 220,
237, 303, 398, 415
宗教……23, 28, 31, 35, 37, 40, 50, 68, 69, 88, 97,
100, 113–115, 121, 130, 141, 145, 148, 202,
206, 208, 234–236, 238, 242, 260, 263, 270,
276, 277, 280, 287, 290, 292–294, 323, 328–
330, 332, 333, 337, 341, 352, 384, 396, 409,
432, 448, 453, 455, 462, 470
十字軍……145, 170, 208, 293, 448
重商主義……123, 296
自由通行権……274
儒教……260, 395, 417, 451, 464
ジュネーブ……240
シェベンディ……449
ジュマイエル……316
シェミット, ヘルムート……93
シェメール……346
シェレイマン・デミレル……489
小アジア……251, 448
少数民族高等弁務官……229
衝突地帯……62
ジョージア……4, 130, 131, 141, 142, 154, 166,
253, 255, 373, 418, 464
ジョージア人……4, 141, 142
植民地……23, 26, 27, 29, 37, 51, 59, 61, 65, 66,
76, 86, 87, 96, 98–102, 110, 112, 113, 122,
124, 125, 147, 151–153, 195, 202, 203, 208,
215, 232–234, 238–241, 290, 291, 293, 296,
298, 300, 301, 306, 308, 309, 318–320, 323,
326, 333, 335, 352–355, 357, 385, 389, 390,
392, 395, 409, 417, 431, 449, 451, 467
ジョンソン書簡……101, 228, 355, 361
シリア……12, 37, 90, 130, 148, 150, 151, 153,

154, 156, 178, 180, 208, 212, 242, 294, 298–
301, 303, 306, 309–311, 313–316, 318–320,
323–326, 340, 341, 344–351, 354–359, 364–
366, 373, 380, 464, 488 →大シリヤ主義
ジリノフスキー……226
シルクロード……395, 407
新オスマン主義……28, 110, 111, 116 →オス
マン主義
シンガポール……335, 406
「新キリスト教徒」……329
人種主義……69, 301, 329, 333, 429, 454
神聖ローマ・ゲルマン帝国……61, 69, 74, 75,
129, 130, 206–208, 281, 445, 446, 449, 453,
454, 462
神聖ローマ帝国……197, 353, 445
新世界秩序……7–9, 28, 30, 86, 105, 112, 129,
151, 218, 220, 229, 264, 265, 287, 298, 302,
305, 333, 334, 339, 361
新秩序……111, 305, 361, 434
新伝統主義的反応……445
水系……37, 347–350, 357, 376–378, 386
スウェーデン……207, 441
ズヴォルニック……273, 274
スーダン……151, 319, 358, 389
スエズ運河……33, 164, 167, 173, 175, 177, 178,
180, 181, 189, 237, 241, 291, 303, 308, 312,
347
スエズ危機……355
スエズ・紅海–バスラ・ライン……347
スカルパント島……174
スカンディナビア半島……196, 291
スキタイ人……122
スターウォーズ……49, 291
ステップ……31, 33, 63, 68, 75, 126, 127, 129,
130, 132, 136, 140, 148, 167, 188, 191, 196,
198–201, 203, 206, 208, 220, 252, 253, 260,
296, 367–390, 392, 409, 441 →カザフスタン
・ステップ ユーラシア・ステップ 乾
燥ステップ
ステップ国家……190, 200, 216
ストラボン……121
スペイクマン……47, 86, 125–128, 146, 303,
389, 488–490
スパシ島……174
スピノザ……327

スペイン……62, 122, 123, 146, 204, 208, 332,
429, 430, 467
スペイン継承戦争……62, 204
スラブ……69, 129, 139, 188, 196, 206, 207, 222,
234, 260, 265, 281, 330, 393, 443, 446, 451
スラブ・ギリシャ……137
スラブ系諸共和国……397
スラブ人……63, 330
スリランカ……122
スルタン・アブドゥルハミト……112, 113, 440
スルタン・マフムード……391
スレイマン大帝〔立法者〕……97
スレプレニツァ……273
スロバキア……130, 253, 451
スロベニア……225, 265, 270, 281, 286, 309,
383, 446, 447
スワヒリ語……246
スンダ海峡……237
スンダ列島……168
西欧……23, 28, 33, 96, 113, 114, 121, 123, 126,
129, 136, 144, 146, 148, 167, 186, 196–198,
202, 205, 208, 217, 235, 237, 293, 437, 439,
440, 443, 447–452, 488
正教……69, 97, 139, 207, 236, 260, 276, 281,
282, 310, 330, 395, 464
政治局員……142
政治潮流……110–112, 115
政治哲学……25, 58
政治文化……28, 37, 87, 88, 90, 91, 98, 99, 106–
111, 113–118, 135, 154, 197, 234, 282, 294,
323, 325, 326, 337, 384, 391, 413, 489
生存圏（Lebensraum）……29, 124, 125, 162,
174–176, 194, 226, 239, 240, 274, 276, 279,
281, 338, 380, 408
セイド・アリ・レイス……392
セーヴル条約……93, 94, 170, 424, 425
セーヴル条約のトラウマ……432
世界銀行……215, 220, 259
世界秩序……12, 95, 123
石油……25, 32, 36, 37, 73, 78, 102, 131, 135,
142–144, 148–150, 155, 165, 172, 178, 179,
181, 260, 290, 295–299, 312, 321, 336, 344,
347, 348, 361, 366, 369, 374, 376, 378, 386,
394, 408, 419
セベスキー……127

セポイの反乱……251
セム主義……327 →反セム主義
セム族……333
セリミエ・モスク……251
セルジューケ朝……36, 145, 146, 250, 293, 312,
346, 352, 367–369, 390, 448, 468, 469, 488
セルビア……12, 13, 35, 139, 217, 219, 220, 225,
263, 265, 267–279, 281–285, 287, 439 →大
セルビア
セルビア共和国……272, 273, 279
セルビア人……88, 113, 272–277, 279, 282
1997年書簡クーデター……28, 29, 110, 114
全体主義……37, 107, 149, 233, 297, 301, 319–
323, 325, 326
ソクラテス……58
ソコルル・メフメト・パシャ……392
ソビエト帝国……33, 106, 182, 395
ソマリア出兵……105
ソユト……69
ソ連……10, 29, 30, 38, 49, 84, 89, 94, 100, 101,
103, 104, 109, 115, 126–132, 134, 135, 140,
141, 148, 150, 157, 162–166, 171, 172, 176,
178, 186, 188, 189, 191, 194, 198, 199, 202,
204–206, 208, 209, 212, 215–217, 226–228,
241, 246, 247, 249, 255, 256, 270, 289, 290,
299, 303, 304, 306, 308, 310, 311, 319, 321,
334, 345, 346, 354, 355, 360, 361, 369–373,
376, 383, 388–390, 394–397, 399, 401, 404,
405, 407, 408, 410, 413, 418, 435, 437, 439,
441–443, 463, 488

た 行

ダーウィン……29, 124
タージ・マハール……251
ダーダネルス海峡……291
ターリク・アズィーズ……381
ターリク・ブン・ズィヤード……62, 238, 467
ターリバーン……408, 411
ダール・アル＝イスラーム……235
タイ……259, 489
第一次世界大戦……26, 43, 59, 62, 71, 73, 77,
90, 98, 100, 137, 138, 144, 147, 152, 161,
170, 171, 194, 205, 232, 239, 240, 300, 301,
308, 331, 333, 344, 347, 352–354, 356, 369,

- 383, 434, 446, 463, 464
 第一次湾岸戦争……298
 大英帝国……395, 464
 第三回ラテラノ公会議……329
 第三世界……76, 81, 189, 191, 245, 261, 311, 335
 第三帝国……69
 第三のローマ……281
 大シリア主義……318
 大西洋……34, 61, 67, 106, 123, 129, 167, 168,
 182, 186, 194, 196, 203–207, 213, 215–218,
 225, 228, 230, 256, 290, 292, 331, 333–335,
 345, 360, 380, 418, 435
 大セルビア……275, 276, 284
 第二憲政期……29, 73, 114, 115
 第二次ウィーン包囲……448, 449
 第二次世界大戦……26, 32, 43, 59, 61, 62, 65,
 74, 77, 90, 94, 100, 103, 109, 125–128, 134,
 152, 155, 161, 162, 171, 185, 194, 197, 202,
 204, 215–217, 220, 225–227, 232, 240, 241,
 255–258, 263, 264, 268, 293, 297, 300, 301,
 303, 308–310, 321, 332, 333, 354, 360, 369,
 370, 403, 409, 434, 435, 441, 442, 446, 464,
 469
 第二次湾岸戦争……298
 太平洋……9, 27, 61, 62, 94, 102, 105, 106, 157,
 168, 171, 182, 185–187, 196, 229, 237, 389,
 400, 401, 403, 405, 414, 417, 418, 435, 464
 →南太平洋
 太平洋艦隊……163
 大量破壊兵器……306
 ダウトオウル……486–490
 ダゲスタン……131
 タジキスタン……132, 230, 231, 234, 394, 397,
 398, 407, 408, 411, 418
 タジク……409, 410
 他者……48, 71, 72, 92, 118, 122, 232, 352, 409,
 425, 448, 449, 452, 453
 タタルスタン……397
 ダビソン, H……146, 488
 タブリーズ……156
 ダマスカス……90, 318, 350, 352, 353
 ダモクリスの剣……32, 93, 155, 383
 タラバーニー……317, 380
 タンザニア……237
 タンザイマークト……28, 33, 108, 109, 111,
 112, 200, 251, 412, 449
 地域大国……9, 30, 32, 33, 65, 71, 100, 103, 104,
 156, 159, 168, 174, 175, 181, 184, 185, 188,
 189, 191, 192, 198, 199, 203, 210, 270, 291,
 292, 294, 296, 299, 300, 304, 305, 310, 345,
 362, 384, 388, 398, 399, 401, 406, 425
 チェーレン, ルドルフ……30, 124, 125
 チェコ……130, 217, 219, 224, 267, 269, 446
 チエコスロバキア……130, 227, 488
 チェチェン人……4, 141, 142
 チグリス川……159
 チグリス・ユーフラテス川……146, 150, 161,
 181, 298, 350
 地政学……3, 4, 6, 8, 9, 24, 26, 29–31, 35, 36, 38–
 40, 48, 49, 51, 52, 54, 59–65, 77–79, 89, 91,
 100, 101, 105, 106, 120, 124–131, 133–138,
 141, 143–152, 156, 162, 164, 165, 168, 171,
 172, 174, 176, 178, 185, 188–190, 192, 193,
 195, 196, 198–200, 204, 206, 210, 216, 217,
 219–221, 224, 226, 231, 234, 236, 237, 243,
 244, 247, 252, 263, 269, 272, 274–276, 283,
 290–292, 294, 296, 298, 299, 301, 303, 305,
 312, 315–317, 331–334, 336, 345, 346, 349,
 350, 356, 357, 366–369, 371–376, 378, 379,
 382, 383, 385–390, 392, 394, 398–401, 403–
 405, 407, 409, 410, 414–416, 420, 431, 441,
 444, 447, 452, 455, 461, 463–466, 468, 470,
 487 →海洋地政学
 地中海……31, 36, 117, 121–123, 128–130, 136,
 140, 143, 146, 159, 160, 165–168, 172–179,
 182, 189, 192, 193, 196, 201–203, 208, 209,
 225, 229, 237, 253, 290, 296, 346, 367, 376,
 387, 391, 395, 415, 418, 429, 437 →東地中海
 地中海艦隊……163
 チト一……270
 チベット……375, 404, 405
 チャーチル……146
 チャップリン……329
 チャナッカレ……468
 チャナッカレ戦争……160
 中欧……129, 146, 155, 167, 196–198, 207–209,
 219, 223, 224, 267, 269–271, 283, 293, 302,
 425, 440, 442, 443, 447, 457
 中央アジア……3, 6, 9, 10, 24, 29, 31, 33, 34, 38,

SAMPLE
S1OSHII-Shingum

- 40, 55, 81, 89, 108, 112, 115, 129, 131, 132, 135, 141, 143, 144, 147, 156, 157, 166, 178, 182–184, 190–192, 199–201, 210, 212, 213, 220, 222, 231, 232, 237, 241, 246–249, 251, 256, 260, 290, 311, 335, 352, 367, 368, 371–374, 376, 388–421, 438, 443, 461, 467, 488
中国……11, 40, 66, 67, 104, 106, 108, 122, 125–127, 131, 132, 139, 144, 157, 182, 188, 190, 199, 216, 229, 235, 238, 249, 251, 259, 260, 278, 291, 296, 306, 307, 310, 311, 335, 350, 362, 372, 373, 390–393, 395, 398, 400, 402–408, 411, 414, 416–418, 420, 436, 451, 452, 464, 470, 489
中東……3, 4, 6, 7, 9, 10, 13, 23–27, 30–33, 35–37, 39, 49–51, 55, 63, 73, 74, 77, 87, 90, 91, 102, 107, 109, 117, 125–130, 132, 133, 135–138, 140–154, 156–158, 163–165, 167, 173, 174, 176–181, 183, 184, 188–190, 192, 199–201, 203, 209, 210, 216, 222–225, 232, 233, 237, 242, 246, 249, 260, 264–267, 269, 280, 281, 284, 286, 287, 289–317, 319–326, 328, 329, 331–337, 339–351, 353–367, 370–380, 382–387, 389, 395, 404, 405, 412, 414, 419, 420, 423, 425, 427, 438, 440–442, 444, 461, 464–466, 468
中東欧……269, 302, 441, 448
中米……128
中立政策……315, 344, 356, 371
チュニジア……201, 229, 253, 306, 323, 325, 326
朝鮮出兵……216
超大国……9, 28, 30, 49, 61, 68, 103–106, 109, 112, 126–129, 132, 147, 156, 162–164, 168, 184, 186, 188, 197, 226, 228, 229, 265, 291, 297, 302, 303, 305, 307, 345, 346, 361, 370, 405, 413, 442, 463, 464
チリ……488
地理経済……6, 9, 31, 32, 36, 38–40, 59, 105, 129–131, 133, 135, 136, 143, 144, 147–151, 187, 188, 237, 242, 252, 261, 290, 294, 296, 298, 299, 301, 303, 334, 337, 346, 347, 375–379, 385, 386, 388, 393–395, 398, 401, 403, 409, 410, 414, 416, 418, 461, 464–466, 468, 470
チングス・ハン……391
ツヴィッヒ, J……137, 488
ツェウネ, A……137, 488
ディズレーリ……330, 331
帝政ロシア……407
デイトン合意……266, 267, 271–275, 277, 310
ティベリアス湖……366
ティムール……132, 390, 391
ティムール帝国……389
ディヤルバクル……369
テクノロジーの漏洩……67
データント……184, 249, 250
テヘラン会談……126
チュルク系……29, 34, 35, 40, 64, 115, 117, 123, 190, 191, 200, 213, 214, 234, 368, 396, 405, 467
チュルク諸語……246
デリー……250, 391
テロ……4, 7, 28, 94, 110, 114, 153, 155, 156, 179, 236, 336, 346–348, 356, 357, 364, 376, 378, 382–384 → イスラーム・テロ カトリック・テロ オクラホマ連邦政府ビル爆破事件
テロリスト……152, 236, 384
テロリズム……236
天安門事件……67, 404
テンギズ油田……394
「転教者」……329
デンマーク……75, 237
ドイツ……26, 43, 61–64, 68, 69, 71, 73–75, 77, 86, 93, 94, 98, 104–106, 113, 115, 125, 126, 130, 137, 141, 147, 155, 161, 178, 187, 188, 191, 192, 197, 198, 204, 206, 207, 218, 226, 228, 235, 248, 250, 257, 258, 260, 264–268, 270, 278, 281, 282, 290, 296, 305, 308–310, 330, 335, 344, 350, 353, 354, 368, 372, 381, 390, 398, 400, 402–404, 415, 423–425, 428–430, 435, 438–447, 453, 462, 464, 465, 469, 486
トインビー……487
統一と進歩委員会……29, 87, 98, 99, 114, 323, 412
東欧……30, 33–35, 39, 63, 107, 125, 128, 155, 166, 167, 176, 177, 179, 183, 190–192, 196–198, 200, 202, 203, 206–209, 213, 217, 219, 220, 222–225, 246, 256, 260, 263, 265–267, 269, 270, 286, 287, 293, 297, 302, 306, 311,

354, 401, 403, 408, 414, 415, 425, 427, 437–
443, 445, 446, 448, 457, 458, 488
トウキディデス……58
トウズラ……272
ドウダエフ……113
東南アジア……168, 260, 389, 404–406, 418
「東方作戦」……73
東方政策……155, 190, 228, 240, 250, 309, 438
東方問題……147, 232, 331
トゥラン……29, 115, 190, 196, 368, 391, 417
ドーバー海峡……237
トーラー……327, 336
独立国家共同体……142, 188
ド・ゴール……65, 205, 228, 309
ドデカネス諸島……156, 161, 174, 180
ドナウ川……76, 140, 143, 159, 163, 165, 193,
207, 253, 271, 276, 286, 345, 443
ドニエストル川……159, 164, 167, 191, 207
ドニエプル川……159, 164, 167, 191, 207
ドボジ……274
ドマリウス・ダロイ……137
ドミニカ共和国……488
ドミニコ会……122
ドラヴァ川……130
ドラヴァ(川) - サヴァ(川)……35, 78, 263, 272
トラキア → 東トラキア 西トラキア
トラシュマコス……58
トラブゾン……156, 167
トランシルバニア……271
トランスオキシアナ……210, 368, 391
ドリナ川……273, 274
ドリナ(川) - サヴァ(川)……275
トルキスタン → 東トルキスタン 西トルキス
 タン
トルクメニスタン……29, 31, 115, 141, 182,
394, 398, 410, 411
トルクメンバシ……410
トルコ共和国……13, 23, 27, 32, 36, 64, 70, 75,
78, 92, 93, 99, 100, 115, 138, 154, 157, 161,
180, 194, 226, 239, 241, 281, 295, 358, 427,
432, 449, 465, 489
トルコ語……90, 120, 123, 246
『トルコ語集成』……123
トルコ主義……28, 110
ドン川……159, 164, 167, 207

ドン川 - ヴォルガ川運河計画……392

な 行

ナイジェリア……256
内陸国……76, 146, 369, 389, 442
内陸地域……438
ナイル川……150, 159, 192, 193, 210, 290, 298,
338
ナヴァリノの戦い……160
中海……121
ナゴルノ・カラバフ……141, 142, 236, 397
ナセル……189, 301, 311, 312, 314, 317, 322,
324, 355, 363
ナセル主義……148, 303, 319, 321
ナチス……125, 328
ナチズム……329, 331, 333
ナヒェヴァン……154
ナヒェヴァン問題……89
ナポレオン……93, 109, 147, 189, 329, 330, 338,
440, 445, 463
ナポレオン戦争……62, 434
ナムク・ケマル……28, 111, 468
南欧……33, 198, 201, 208, 209, 425
南西アジア……192
南東アジア……188
南東アフリカ……188
南東欧……427
南東欧フォーラム……443
南東ヨーロッパ半島……137
南北問題……229, 230, 260, 261
2月28日プロセス……28, 29, 110, 114–116
ニカラグア……488
二極体制……30, 35, 38, 39, 49, 52, 78, 101, 103,
105, 109, 128, 133, 147, 148, 151, 153, 162,
164, 165, 171, 178, 184–186, 195, 197, 202,
204, 207, 216, 217, 220, 221, 229, 232, 233,
240, 252, 253, 263, 264, 268, 270, 291, 292,
297, 300, 301, 303, 305, 307, 310, 318, 319,
320, 344–346, 354, 388, 398, 399, 401, 405,
406, 434, 435, 438, 439, 442, 465
ニザームルムルク……368
西アジア……34, 40, 142–144, 150, 178, 179, 188
–190, 192, 196, 199, 200, 203, 209, 210, 213,
246, 249, 256, 260, 367, 369, 372, 374, 411,

SAMPLE
Shoshi-Shinji.com

414, 416-419, 467
 西側ブロック……102, 130, 270, 307
 西太平洋艦隊……163
 西トラキア……180, 184, 194, 271, 283, 286
 西トリポリの抵抗戦……87
 西トルキスタン……395, 409
 日本……12, 13, 65-68, 74, 94, 104, 106, 108,
 109, 113, 125, 126, 139, 141, 188, 189, 199,
 203, 205, 229, 257-260, 305, 310, 311, 335,
 352, 354, 372, 373, 398, 400, 402-406, 416-
 418, 452, 463-465, 469
 ニュージーランド……126
 スサイリー（アラヴィー）派……326
 ネオ・オリエンタリスト……451
 ネタニヤフ政権……321
 ノアの洪水……122
 ノヴォロースィク……179
 ノヴォロシスク港……172
 ノルウェー……126, 216
 ノルウェー海艦隊……163
 ノルマンディー上陸……216, 217, 304, 305
 は 行
 ハーグ国際司法裁判所……427
 バイス主義……148
 パース党……301, 319, 321, 376
 ハータミー……250, 371
 ハートランド……30, 125, 126, 129, 237, 290,
 367, 389, 390, 398
 パープル……40, 191, 468
 バイカル湖……394
 ハイダル・アリエフ……142
 ハイチ……488
 ハウサ語……246
 ハウスホーファー……86, 125, 126, 147, 403,
 489, 490
 パウンズ, N. J. G. ……146, 488
 ハガル……336
 パキスタン……12, 63, 126, 132, 148, 182, 190,
 191, 199, 232, 233, 235, 236, 246-248, 250,
 251, 290, 303, 312, 350, 373, 398, 406-408,
 411, 418, 486
 パク……142, 143
 パクー・ジェイハン（パイプライン）……

144, 172, 178, 179, 347, 348
 パクス・アメリカーナ……308
 パクス・オスマニカ……70, 448
 パクス・ブリタニカ……462
 パグダード……90, 181, 194, 267, 314, 317, 318,
 344, 352, 369, 383
 パグダード条約……194, 312, 314, 355
 パグダード鉄道……441
 バザール……469
 ハザール王国……159
 ハザール・トルコ人……137
 ハサン（モロッコ国王）……324
 ハサン（ヨルダン元皇太子）……317
 バスラ……148, 182, 292, 318, 345-347, 351,
 373, 374, 387
 ハタイ……60
 ハタイ作戦……90
 バトゥム……156
 ハトゥラン……192, 346
 バナマ……488
 バナマ運河……168
 バビロニア……346
 バビロニア人……120
 バビロニア帝国……146
 バビロニア的知識……120
 バビロン捕囚……329
 ハプスブルク家……445
 ハマス……322, 338
 ハムディエ号……160
 パヤズィット……391
 パラク……310, 341, 342
 パラク・アラファト会談……364
 パリ条約……170
 パルカン……3, 6, 9, 10, 24, 29, 31-33, 35, 39,
 52, 55, 64, 78, 87-89, 91, 99, 100, 102, 109,
 113-115, 117, 129, 133-144, 146, 147, 153,
 154, 157, 159-161, 163-165, 168, 173, 174,
 176-179, 183, 192, 194, 198, 200-202, 206-
 209, 220, 222-225, 230-232, 240, 241, 251,
 255, 256, 263-268, 270-272, 274, 276-278,
 280-287, 289-292, 300, 309, 341, 344, 345,
 347, 350, 367, 368, 375, 386, 391, 392, 401,
 412, 414, 415, 423, 427, 436, 438-444, 461,
 464, 465, 468, 469, 488
 パルザーニ一家……316

- バルザニー, マスウード……376
 バルザニー, ムスタファ……317, 376, 380
 バルチック海……401
 バルチック艦隊……163
 バルト三国……207, 443
 「バルバロス（赤鬚）」ハイレッディン・パシャ……159
 バルヒー（アブー・イスハーク・イブラーヒム）……122
 バルヒー学派……123
 バルフォア宣言……331
 パレスチナ……37, 73, 152, 232, 233, 236, 242, 245, 246, 295, 304, 310, 313, 315, 316, 318, 319, 322, 324, 328-334, 336-338, 340, 341, 343, 348, 355, 375, 377-382, 386, 466, 488
 パレスチナ自治政府……340
 汎アラブ主義……318, 319
 汎イスラーム主義……98, 392
 ハンガリー……13, 35, 130, 217, 219, 220, 224, 263, 267, 269-271, 281, 284, 286, 446, 488
 パンクーバー……229
 ベンガラデシュ……246
 反シオニズム……333
 反セム主義……327-333, 335, 338 →セム主義
 ハンチントン……40, 47, 48, 52, 86, 113, 149, 193, 236, 265, 404, 452-454, 470, 487, 488, 490
 反帝国主義……23, 99, 113, 202, 241, 317
 汎テュルク主義……115, 239, 392
 反トルコ……282, 285, 320, 358, 360, 363, 364, 373
 ピールーニー……123
 ピール・ライース……123
 東アジア……9, 12, 13, 27, 31, 33, 34, 67, 102, 108, 128, 135, 167, 184, 187, 190, 199, 200, 210, 213, 216, 256, 259, 354, 380, 401, 403-405, 414, 417, 488
 東アナトリア……31, 87, 89, 130, 131, 140, 143, 167, 178, 179, 299, 346, 347, 366, 369
 東アフリカ……34, 144, 189, 191, 201, 202, 237, 296, 389
 東エーゲ諸島……174
 東側ロック……101, 252, 254
 東地中海……9, 31-33, 123, 135, 159, 160, 163-165, 167, 173, 176-181, 192, 198, 209, 210, 263, 283, 284, 292, 298, 318, 345-348, 351, 365, 374-376, 427, 461
 東ティモール……233
 東トラキア……33, 88, 89, 137, 139, 198, 232, 282, 283, 448
 東トルキスタン……393, 395, 404, 405
 東ローマ……250, 453
 東ローマ（ギリシャ）人……469
 引き裂かれた国……23, 52, 452-454
 引き裂かれた自我……92
 ビザンツ帝国……159, 170, 193, 367, 368, 448
 ビスマルク……68, 74, 93, 446
 ピッグス湾……216
 ヒッタイト……36, 312
 ヒッタイト族……336
 非同盟（諸国／陣営）……189, 191, 202, 355, 361
 人質問題（イラン革命）……370
 ヒトラー……69, 73, 74, 93, 126, 147, 162, 331, 446
 ビハチ……275, 283
 ヒマラヤ……388
 百年戦争……62
 ピョートル大帝……68
 ピレネー山脈……62, 238
 ヒンズー教……260
 ヒンズー教徒……238
 ヒンディー語……246
 ファーティマ朝……36, 312
 ファーラービー……58
 ファイサル（サウジ国王）……73, 297, 325
 ファハド（サウジ国王）……325
 フィクレト・アブディッチ……88
 フィジー……237
 フィッシャー, T……137, 488
 フィリピン……50, 126, 489
 フーゼスターーン……318
 プーチン……11, 372, 402, 408, 415, 418
 フーラニー, アルバート……353, 486
 フェルガナ盆地……409
 フォーク, リチャード……149, 487-489
 フォークランド……488
 フォークランド紛争……104
 フォチャ……273, 274
 フォン・ハーン, I. G. ……137

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com

福音党……28, 110, 116, 212
 フクヤマ, フランシス……86, 113, 148, 236, 265, 487, 488, 490
 フセイン（ヨルダン国王）……316, 317, 324-326
 フセイン, サダム……3, 154, 236, 302, 304-307, 317, 324-326, 363, 378-380
 部族主義……107, 321, 377
 仏教……260, 352
 プトレマイオス……121, 122
 ブハラ……391, 409, 410
 ブビライ・ハン……390
 フマーユーン……123
 プラグマティズム……87, 112, 190, 237, 424
 ブラジル……50, 104, 259, 260, 486, 488
 フランク族……196
 フランクフルト……329
 フランシスコ会……122
 フランス……65, 67, 68, 87, 90, 104, 109, 112, 147, 151, 155, 161, 168, 169, 188, 191, 204, 208, 225, 228, 235, 239, 241, 248, 258, 260, 264, 267, 268, 301, 306, 308-310, 330, 331, 334, 344, 365, 368, 390, 398, 404, 417, 438-441, 445-447, 449, 453, 454, 462-467
 フランス革命……59, 109, 111, 197, 329, 330, 334, 338, 352, 448, 449, 463
 フランス人……93, 330
 ブランデンブルク……62
 ブラント……228
 フリードリヒ2世……74, 440, 441
 ブリジェドル……274
 ブリュッティナ空港……268, 280
 ブリュッティナーポドウェヴォ幹線道路……285
 ブリズレン空港……226
 ブリテン……123
 ブリュッセル……210
 ブルート川の戦い……226
 ブルガイ大学……468
 ブルガリア……13, 35, 78, 88, 137-139, 144, 154, 163, 165, 166, 180, 184, 225, 253, 255, 263, 270, 271, 278, 280-282, 284-286, 438, 451, 464
 ブルギバ……326
 ブルサ……352

ブルチコ……266
 ブレジンスキー……86, 126, 148, 404, 486, 488, 490
 ブレスター・ジョン……122
 ブレスラー, ラリー……407
 ブレトンウッズ-GATT体制……186
 ブロイセン-オスマン帝国関係……440, 441
 ブロイト……327
 ブローデル……120, 122, 489
 ブロテストント……260, 395, 445
 ブロンスペルガー……449
 文化地理……6, 9, 27, 28, 32, 33, 35-40, 51, 52, 59, 61-64, 90, 91, 102, 109, 110, 129, 130, 133, 136-138, 144-149, 187, 188, 198-200, 206, 209, 222, 231, 232, 234, 237, 238, 242, 246, 263, 264, 272, 276, 277, 282, 283, 289, 290, 292-295, 301, 331, 332, 368, 375, 376, 378, 385-395, 398, 401, 409, 410, 414, 451, 455, 456, 458, 461, 464-466, 468, 470
 ブンボルト……390
 文明……11-13, 27, 28, 38, 40, 44, 48, 52, 64, 69, 96, 97, 100, 107-110, 114, 117, 118, 120-124, 130, 131, 145, 146, 148, 149, 172, 190, 191, 193, 194, 204, 208, 209, 232-238, 243, 250, 251, 259, 260, 265, 290, 293, 295, 301, 352, 390-392, 422-445, 447-456, 458, 462, 467-470
 文明の衝突……40, 48, 148, 149, 236, 238, 260, 265, 443, 452, 469, 470
 「文明の衝突」……487, 488, 490
 『文明の衝突』……113, 487, 490
 ヘーゲル……69
 ベギン……297
 ヘス, モーゼス……328, 330
 ヘス, ルドルフ……125
 ベッサラビア……281
 ベトナム……128, 132, 199, 217, 489
 ベトナム出兵……216
 ベトナム侵攻……127
 ベトナム戦争……216, 217
 ヘブロン……336
 ベラサグン……123
 ベリサリウス……159
 ベルギー……241
 ベルシャ帝国……193, 367

ペルシャ湾（岸）……31–33, 36, 130, 135, 148, 150, 159, 161, 163, 165, 167, 174–177, 180, 181, 190, 210, 237, 290, 296, 298, 299, 323, 346, 367, 374–376, 389, 418, 461, 488
 ヘルシンキ・プロセス……426
 ヘルシンキ安全保障協力協定……155
 ヘルシンキ会議／サミット……109, 182, 197, 228, 230, 371, 382, 416, 423, 425–427, 431
 ヘルツル, テオドール……330
 ベルモント, オーガスト……331
 ベルリン……171, 197, 344, 441, 488
 ベルリン条約……170
 ベルリンの壁……3, 105, 155, 156, 218
 ベルリン–バグダード鉄道敷設政策……147
 ペレストロイカ……228
 ペロポネソス戦争……58
 ベンガル語……246
 ベン・グリオン……362
 ベンジャルカ……272
 防衛産業……25, 66, 75–80, 397
 封建制……27, 58, 97, 197
 方法論……7, 9, 23, 43, 44, 47, 48, 50–52, 91, 422, 423
 ホーナー, ミラン……199
 ポーランド……130, 191, 207, 217, 219, 224, 253, 267–269, 281, 446
 ホガース……146
 北東エーベ諸島……161
 北米……228, 229, 435
 ホジャク峠……131, 406
 ポスト冷戦期……7, 8, 13, 23, 28, 29, 31, 33–35, 39, 43, 52, 59, 64–66, 69, 80, 88, 95, 101–103, 105–107, 110–115, 120, 128, 129, 131, 133, 140–143, 147–153, 164, 165, 171–173, 178, 181, 182, 185, 191, 198–200, 204–206, 212–215, 217, 218, 220–222, 227, 228, 230, 231, 234–237, 241, 242, 245, 247–249, 252, 257, 259, 260, 264, 270, 280, 282, 303, 304, 306, 307, 311, 318–320, 324, 326, 331, 335, 336, 339, 343–345, 357, 360, 361, 363, 364, 370, 374, 385, 393, 398, 402, 404, 406, 407, 410, 411, 413–415, 418, 440, 445, 465, 466, 486, 489
 ポスニア……3, 4, 11, 35, 51, 78, 88, 89, 102, 113, 130, 138, 139, 140, 154, 180, 219, 222,

230, 231, 234, 236, 241, 242, 245, 263–267, 269–277, 279, 281–283, 286, 287, 310, 324, 335, 343, 439, 466
 ポスニア・ヘルツェゴビナ……12, 35, 263, 272, 274–277, 282, 284, 285, 444
 ポスニア問題／紛争……9, 30, 78, 88, 102, 105, 113, 129, 149, 186, 207, 241, 246, 264, 266, 267, 278, 439, 447, 452
 ポスニヤク人……4, 35, 88, 138, 266, 271–273, 277, 279, 281–283, 285, 287, 439
 ポスフォラス海峡……33, 161, 180, 181, 291
 ポスフォラス・ダーダネルス海峡……32, 143, 144, 161, 166, 168–173, 177–179, 192, 201, 345, 347, 369, 441, 461
 ポダン……449
 北海……163, 191
 北極……127
 北極海……125
 ポツダム会談……126
 ボドルム湾……120
 ホメイニ……190, 312, 317, 339
 ホメロス……121
 ボリシェビキ（革命／主義）……99, 109, 232, 234 → 共産主義 マルクス主義
 ポリビア……488
 ポルトガル……146, 204, 391, 429, 430
 ホルムズ海峡……167, 177, 181, 237, 291
 香港……335, 389

ま 行

マーストリヒト条約……186, 435
 マーワラー・アンナフル……367, 368, 391
 マイノリティ……91, 100, 112, 139, 184, 235, 327, 329, 332, 432
 マキャベリ……58
 マクディフィー……123
 マケドニア……3, 13, 35, 78, 121, 139, 140, 193, 263, 267, 270–272, 276–278, 280, 283–285, 444
 マジャール・アリー提督……123
 マシュハド–サラフス–テジェン鉄道……419
 『マスナウイー』……40, 470 → ジャラール・ディーン・ルーミー メヴラナ
 マタラム海峡……237

マッカーサー……216
 マッキンダー……30, 47, 86, 125–127, 389, 394,
 489, 490
 マドリード……309, 339
 マドリード会議……265
 マハン……47, 77, 86, 126–128, 144, 302, 489
 マフディー運動……202
 マフムード・カシュガリー……123
 マムルーク朝……36, 312
 マラズギルトの戦い……448
 マラッカ海峡……237
 マリク……368
 マリク・シャー……368
 マルクス……327, 328
 マルクス主義……69, 202 →共産主義 ボリ
 シェビキ（革命／主義）
 マルコス……236
 マルジュ・ダービク……34
 マルジュ・ダービク遠征……201
 マルタ……177
 マルマラ海……123, 166, 172, 174, 175, 461
 マルマリス島……174
 マレー……235, 246
 マレー語……246
 マレーシア……233, 246, 256, 259, 406
 マンデブ海峡……167
 マンデラ……202
 ミサイル危機……180
 水問題……150, 315
 ミトロヴィーチャ……280
 南アフリカ……191, 259, 260, 394, 486
 南アフリカ共和国……188, 260
 南アメリカ……187, 204, 260
 南エーゲ諸島……174
 南コーカサス……130, 140–142
 南太平洋……260
 ミャンマー（ビルマ）……236, 489
 ミルオケファロンの戦い……250
 ミレット制……448
 ミロシエビッチ……69, 236, 263, 269, 276, 278
 民主主義……10, 11, 114, 229, 302, 326, 370,
 410, 432, 433, 454
 民族……3, 7, 23, 26–29, 31, 33, 35, 37, 40, 51,
 52, 59–62, 64, 68, 69, 74, 88, 91, 93, 95, 97,
 100, 101, 106–110, 112–117, 121, 130, 134,

138–140, 147, 154, 158, 180, 190, 191, 193,
 196, 200, 206, 207, 222, 235, 238–241, 246,
 250, 263, 270–274, 276, 277, 280–284, 286,
 293, 294, 301, 323–328, 330–333, 335, 337,
 338, 352, 354, 355, 362, 367, 368, 373–379,
 384–387, 390, 391, 393, 396, 397, 405, 409,
 410, 432–434, 451, 453–455, 457, 463, 467,
 468, 470
 民族移動……145, 146, 196, 206, 390
 民族自決……308
 民族主義……29, 69, 98, 115, 116, 226, 232, 241,
 294, 297, 301, 303, 311, 317, 318, 320–323,
 328, 330, 331, 335, 337, 338, 352, 355, 357–
 359, 373, 377, 387, 397, 448, 449
 民族浄化……3, 35, 138, 154, 217, 219, 220, 232,
 241, 264, 266, 267, 269, 272–278, 283, 329,
 332
 ミンタカ峰……407
 ミンダナオ……233
 ムガール帝国……40, 191, 251, 390, 391, 468
 ムドロス休戦……170
 ムバラク……324, 326
 ムハンマド……332
 ムハンマド・アリー・パシャ……201
 ムハンマド・イクバール……392
 ムハンマド・サドル……378
 ムラト4世……392
 メヴラナ……469 →ジャラールッディーン・
 ルーミー『マスナヴィー』
 メキシコ……186, 259, 260, 486
 メスト・ユルマズ……281
 メスヘティア・トルコ人……154
 メソポタミア……6, 37, 121, 130, 151, 165, 181,
 190, 192, 210, 290, 292, 293, 295, 318, 345–
 347, 350, 351, 368, 373–376, 378, 386
 メソポタミア－バスマ・ライン……345, 346,
 351, 373, 374
 メフメト・アーキフ……468
 メフメト二世（征服帝）……170, 463
 編花連合……251
 メンタリティー……245, 326, 338
 毛沢東……451
 モーゲンソー……58, 59
 モサデク……297
 モサド……381

モスクワ……394, 397
モスクワ大公国……68, 390, 401
モスター……272, 274, 468
モスル……87, 161, 178, 299, 347
モラヴァ川……130
モラヴァ(川) - ヴァルダル(川) ……35, 78, 263, 272, 276
モレアス專制公領……123
モロッコ……50, 229, 237, 242, 290, 323, 324, 334, 358, 389
モンゴル……145, 388-390, 405
モンゴル王……122
モンゴル帝国……389, 390, 448
モンテネグロ……139, 230, 231, 270, 279, 343
モントレー協定……161

や 行

SAMPLE
Shishii-Shinsui.com

ヤズズ・スルタン・セリム1世……34, 201, 392
ヤルタ会談……126
ヤルムーク川……298
「柔らかな下腹」……32, 152, 161, 272, 275, 318, 384, 405
『有機体国家』……125
ユーロスラビア……78, 130, 137, 178, 202, 264, 265, 267, 269, 270, 275-279, 281, 284, 289, 302, 309, 383, 438, 447
ユーフラテス川……159, 193, 338
ユーラシア……3, 23, 26, 29-31, 34, 35, 37, 38, 51, 61, 68, 75, 94, 99, 106, 115, 123, 125-134, 136, 140, 143, 160, 162, 163, 165, 167-171, 175, 177, 179, 187, 188, 191-193, 196, 197, 199-201, 204, 206, 207, 210, 213-217, 220, 222, 227-232, 234, 237, 247, 249, 252, 253, 255, 260, 263, 290, 291, 296, 308, 311, 344, 367, 368, 370-372, 375, 376, 386, 388-395, 398-404, 406, 407, 414-417, 435, 437, 438, 441, 443, 447, 448, 468, 488
ユーラシア・ステップ……146, 159, 204, 375, 388, 389, 391, 409
ユスティニアヌス帝……159
ユスフ・アクチュラ……110
『ユダヤ国家』……330
ユダヤ国家……330
ユダヤ・ノイローゼ……327
輸入補助……79, 424, 428, 429
ヨーロッパ共通の家……228
ヨーロッパ経済協力機構……182
ヨーロッパ大陸……33, 38, 39, 62, 63, 75, 186, 196-199, 203, 204, 206, 208, 263, 422, 437, 447, 450, 455, 458
ヨーロッパ多国籍軍最高司令部……128
ヨルダン……37, 229, 298, 306, 313-319, 323-325, 334, 336, 340, 341, 357, 359, 363, 373, 378, 488
ヨルダン川……150
ヨルダン川西岸……37, 315, 336, 340, 341

ら 行

ラウフ・オルバイ……160, 161
ラツェル……29, 30, 124
ラテン……260
ラテンアメリカ……6, 7, 12, 101, 108, 268
ラテン帝国……448
ラフサンジャニ……190, 339, 370
ラホール……391, 392
ランドパワー……369
リアルポリティクス……25, 30, 58, 59, 63, 105, 113, 129, 139, 177, 193, 216, 249, 264, 265, 273, 282, 305, 363, 375, 387, 417-419
リシェリュー枢機卿……463
リスピオン・サミット……230
リッター……137
リビア……87, 160, 201, 208, 306, 309, 323, 340, 347, 348, 359
リムランド……188, 290, 291, 303, 367, 389, 398
ルイス, バーナード……487, 488
ルーズベルト, セオドア……126, 302
ルーマニア……50, 75, 139, 165, 166, 225, 253, 255, 270, 271, 284, 286, 438, 451
ルーマニア人……282
ルーミー → ジャラール・ディーン・ルーミー
ルーム・セルジューク朝……250, 251
ルクセンブルク・サミット……109, 425, 457
ルネサンス……117
ルメリ……168, 468, 469, 488
ルワンダ……341
レイン, ロナルド・D……91, 92
レヴァント戦略……318, 347

- レーダー元帥……125
 歴史……3-9, 11-13, 23-29, 31-36, 38-40, 43-45, 47-55, 57-64, 68-76, 78, 79, 82, 83, 86-100, 102, 106-110, 113-118, 120, 122, 125, 130-132, 134, 136, 138, 139, 140, 145-149, 152, 154, 158-160, 162, 165, 168, 170, 180, 187, 189, 190-194, 196, 197, 200, 202-204, 206-210, 213, 216, 221, 222, 225-227, 230-236, 238, 242, 243, 246, 248-251, 253, 256, 263, 267, 268, 271, 276, 277, 281, 282, 290-295, 304, 305, 307-310, 312, 318, 319, 321, 324, 326-329, 332, 335-338, 341, 343, 346, 350-355, 360, 364, 366-370, 372, 373, 379, 383-386, 388-391, 393-395, 401, 403-406, 409, 410, 412, 416-418, 422-424, 426, 432-436, 438-442, 444-458, 460-470, 486, 489
 歴史の終わり……7, 8, 149, 236, 265
 「歴史の終わり」……490
 『歴史の終わり』……113, 487, 490
 レザー・パーソンヴィー……240
 レバノン……12, 37, 294, 298, 304, 309, 313, 315, 316, 319, 324, 328, 332, 340, 341, 374, 488
 レバノン内戦……304
 連邦制……106, 464
 ローランヌ条約……100, 139, 170, 347, 432
 ローランヌ体制……432
 ロードス島……161
 ローマ……121, 122, 137, 201, 204, 208, 218, 219, 269, 282, 287, 351-353, 367
 ローマ・カルタゴ戦争……208
 ローマ人……121
 ローマ帝国……159, 193, 196, 202, 293, 445, 448, 453, 457
 『ローマとエルサレム』……328
 ロシア……11, 31-33, 35, 43, 49, 63, 64, 69, 75, 77, 87, 89, 91, 97, 99, 106, 109, 112, 126, 132, 139-142, 144, 147, 155, 159, 161, 165, 166, 169-171, 178-180, 182, 183, 188-192, 198-201, 205-207, 214, 220, 222, 225, 226, 229, 234, 235, 239, 248, 249, 253-255, 257, 258, 260, 262, 264, 266-268, 270, 271, 278-282, 290, 293, 306, 307, 310, 311, 344, 348, 362, 365, 367, 369, 372, 373, 376, 383, 389-393, 395, 396, 398, 400-403, 405-408, 410, 411, 413, 415-420, 436, 437, 439-444, 464
 ロシア革命……29, 115, 239
 ロシア人……89, 141, 142, 159, 191, 201, 397, 468
 ロシア帝国……33, 68, 69, 182, 226, 310, 389, 401, 464
 ロスチャイルド家……331
 露土戦争（93年戦争）……89, 112
 ロンドン条約……170
 ロンボク……168
 ロンボク海峡……237
 ロンメル将軍……125

わ 行

- ワイズマン, エゼル……365
 ワイマール共和国……73
 ワシントン会議……215
 ワッハーブ派……201
 ワハーン回廊……128, 131
 和平交渉……12, 150, 242, 265, 267, 276, 292, 295, 300, 335, 336, 339, 341, 359, 366
 和平プロセス……49, 151-153, 181, 188, 300, 309, 310, 317, 319, 321, 322, 329, 334-343, 348, 349, 356, 357, 359, 361-364, 366, 387
 ワルシャワ条約機構……128, 140, 163, 166, 171, 197, 218, 226, 228, 318, 344, 346, 373, 435, 437, 439, 442
 我らの海……121
 『我々にとってアジアとは何か』……199
 湾岸諸国……181, 297, 356
 湾岸戦争……3, 9, 30, 36, 37, 104, 105, 129, 148, 151, 152, 178, 212, 217, 221, 236, 245, 246, 264, 265, 267, 269, 292, 298, 300, 304-307, 309, 310, 315, 317, 334, 338-340, 344, 347, 351, 356, 359, 361, 363, 364, 376, 378, 379
 →第一次湾岸戦争 第二次湾岸戦争

SAMPLE
Shoshi-Shinsui.com